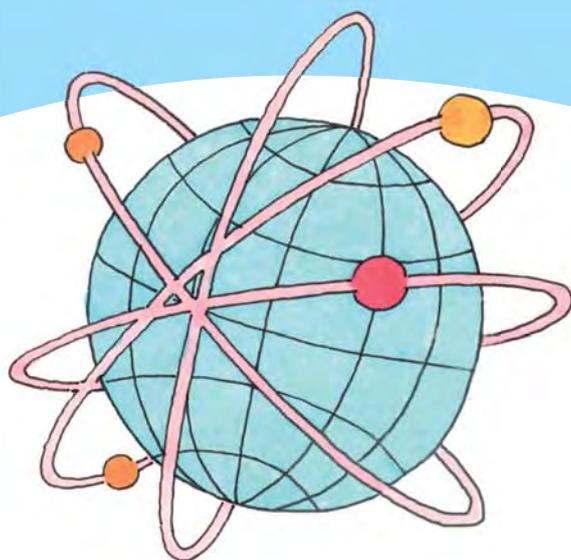


国際化市民フォーラム in TOKYO



実施報告書

平成25年2月23日(土) 10:00~16:00

東京ウィメンズプラザ

主	催	東京都国際交流委員会	国際交流・協力TOKYO連絡会
共	催	東京都	日本国際連合協会東京都本部
後	援	JICA地球ひろば	財団法人自治体国際化協会

目 次

I	事業概要	1
	1 開催概要	1
	2 開催プログラム	2
II	実施概要	4
	第1分科会	
	実践者から学ぼう！国際協力のシゴト、はじめの一步	4
	第2分科会	
	「わかる日本語」による情報提供 ～新たな取組を紹介！	20
	第3分科会	
	行ってみよう防災訓練、進めよう地域の取組	41
	第4分科会	
	「わかる日本語」ワークショップ ～外国人にとって、「わかる日本語」は本当にわかりやすいか	62
III	国際化市民フォーラム in TOKYO アンケート結果	73

I 事業概要

1 開催概要

(1) 目的

外国人登録者数が約40万人で総人口の3%を占める東京。グローバル化する東京が抱える問題点や課題、国際協力のあり方などを都民の皆さまとともに考え、国際化への理解と認識を深める機会とします。

(2) 実施方法

分科会方式（4分科会）

(3) 内容

- ① 実践者から学ぼう！国際協力のシゴト、はじめの一步
- ② わかる日本語による情報提供～新たな取組を紹介！
- ③ 行ってみよう防災訓練、進めよう地域の取組
- ④ わかる日本語～ワークショップ
～外国人にとって、「わかる日本語」は本当にわかりやすいか

(4) 日時 平成25年2月13日（土）10:00～16:00

(5) 場所 東京ウィメンズプラザ（渋谷区神宮前5-53-67）

(6) 定員 各分科会 50人

(7) 参加費 無料

(8) 主催 東京都国際交流委員会 国際交流・協力TOKYO連絡会

(9) 共催 東京都 日本国際連合協会東京都本部

(10) 後援 JICA地球ひろば 財団法人自治体国際化協会

国際化市民フォーラム in TOKYO

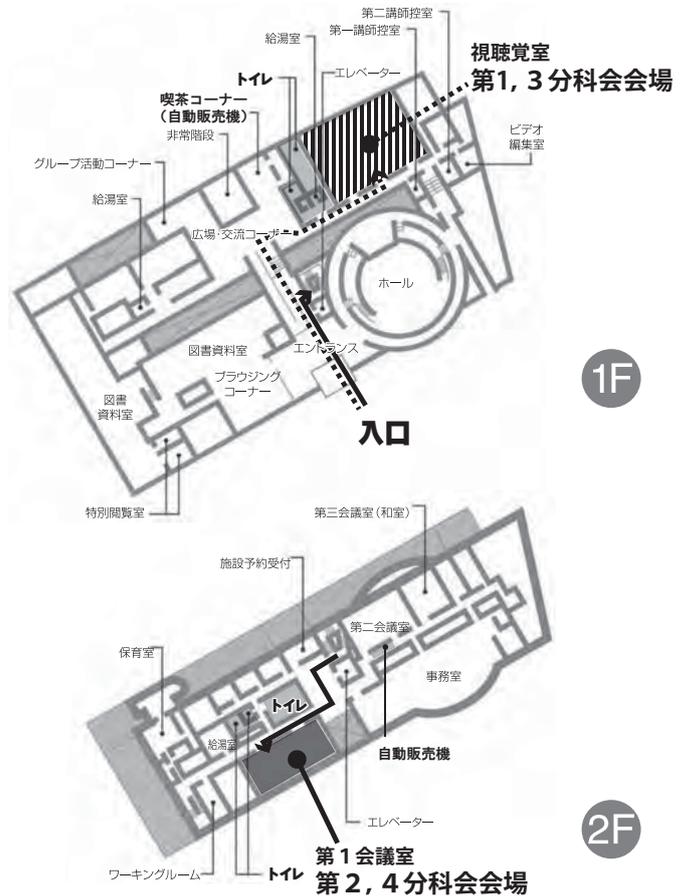
外国人登録者数が約40万人で総人口の3%を占める東京。グローバル化する東京が抱える問題点や課題、国際協力のあり方などを都民の皆さまとともに考え、国際化への理解と認識を深める機会とします。

● 開催日時 平成25年 **2月23日** (土)
10:00 ~ 16:00

● 開催場所 東京ウィメンズプラザ
(東京都渋谷区神宮前 5-53-67)

● 受付 午前分科会 9:30 から
午後分科会 13:00 から

● 定員 各分科会 50名



午前 10:00 ~ 12:30

視聴覚室 (1F)

実践者から学ぼう！国際協力のシゴト、はじめの一步

国際協力を仕事として活躍している方や、国際協力に関して一步を踏み出し実際に活動を行っている方などにご登壇いただき、多様な形で国際協力に関わる方法やその業務・活動内容などについてお話いただきます。参加者には、それぞれの登壇者の話を聞くことで国際協力への理解を深めると同時に「自分にどのような関わり方ができるのか」、考えるきっかけを提供します。

コーディネーター

富野 岳士氏 (特活) 国際協力 NGO センター 事務局次長

パネリスト

山口 真司氏 富士ゼロックス株式会社
プロダクションサービス営業本部マーケティング部
門田瑠衣子氏 エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表理事
笹生 健司氏 千葉県総合企画部国際課副課長
宇都 喬之氏 横浜国立大学公認 国際協力サークル Tree of Message

「わかる日本語」による情報提供 ～新たな取組を紹介！

「わかる日本語」は、多言語による情報提供を補完するばかりでなく、みんなにわかりやすく情報提供するという意味で、多文化共生社会や高齢化社会などに幅広く門戸を開くツールです。

「わかる日本語」を広めるための試みは着々と進んでおり、ここではその新たな取組についてご紹介し、今後の展望を探ります。

コーディネーター	梶村 勝利氏	東京日本語ボランティア・ネットワーク 代表
基調講演	庵 功雄氏 越智 慎司氏	一橋大学国際教育センター・言語社会研究科 准教授 NHK 報道局ネット報道部 専任記者 (制作)
パネリスト	薄場 郁子氏 倉田 広氏	荒川区区民生活部文化交流推進課都市交流係長 練馬区区民生活事業本部地域文化部地域振興課事業推進係長

午後 13:30 ～ 16:00

行ってみよう防災訓練、進めよう地域の取組

3. 11を経験し、次なる震災に備えておくことは急務になっています。いざという時に自分や家族などの身の安全を図るため、どのような備えをし行動をとったらよいのか？自治体、地域、学校などで取り組まれている防災訓練に楽しみながら参加するにはどうしたらよいか、防災のための知識や経験を得るための地域の取組を考えます。

コーディネーター	土井 佳彦氏	(特活) 多文化共生リソースセンター 東海 代表理事
パネリスト	古川 豊光氏 デズモンド・T・ベル氏 スッチー・マッシュモ氏	八王子国際協会 (小平市在住) (八王子市在住)
ワークショップ	堀之内陽子氏	(特活) はままつ子育てネットワーク 事務局

「わかる日本語」ワークショップ

～外国人にとって、「わかる日本語」は本当にわかりやすいか

日本語を学習する在住外国人は、「情報はわかりやすい日本語で書いてほしい」と希望する人が多くなっています。それに応えるように、「わかる日本語」で情報提供する動きが進んでいますが、在住外国人にとって本当にわかりやすいのでしょうか？ここでは、「わかる日本語」を利用する在住外国人にも参加していただくワークショップを通じて、「わかる日本語」のさらなるブラッシュアップを求めます。

コーディネーター	中山真理子氏	NPO 法人多文化子ども自立支援センター 代表理事
ゲスト	在住外国籍住民の方3名	

II 実施概要

分科会 1

- テ – マ 実践者から学ぼう！国際協力のシゴト、はじめの一歩
- ね ら い 国際協力を仕事として活躍している方や、国際協力に関して一歩を踏み出し実際に活動を行っている方などにご登壇いただき、多様な形で国際協力に関わる方法やその業務・活動内容についてお話いただく。参加者には、それぞれの登壇者の話を聞くことで国際協力への理解を深めると同時に、「自分にどのような関わり方ができるのか」、考えるきっかけを提供します。
- コーディネーター 富野 岳士 ((特活) 国際協力 NGO センター事務局次長)
- パネリスト 山口 真司 (富士ゼロックス株式会社プロダクションサービス 営業本部マーケティング部)
- 門田 瑠衣子 (エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表理事)
- 笹生 健司 (千葉県総合企画部国際課副課長)
- 宇都 喬之 (横浜国立大学公認 国際協力サークル Tree of Message)
- 参加者数 34 名

■分科会の構成■

- コーディネーターより挨拶
- 各登壇者より発表
- まとめ
- コーディネーターより挨拶

富野 岳士氏 特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC) 事務局次長

今回の分科会は「国際協力」がテーマである。JANIC に相談が多いのは「国際協力を始めたいけれど、具体的に何から始めればいいのか分からない」という内容である。このような悩みにお答えするには、実践者から学ぶのが 1 番ではないかと思いこの分科会を開催することになった。

私自身は仕事で NGO として国際協力に関わっているが、登壇者の 4 名はそれぞれの形で国際協力に関わっている。

この分科会では 4 名の「国際協力」との関わり方を参加者に知っていただき、今後の参考にさせていただきたいと願っている。



富野 岳士氏

平成24年度 国際化市民フォーラム
第1分科会

実践者から学ぼう！
国際協力のシゴト、はじめの一步

2013年2月23日
認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
事務局次長 富野 岳士



自己紹介

富野 岳士(とみのたけし)
国際協力NGOセンター(JANIC) 事務局次長



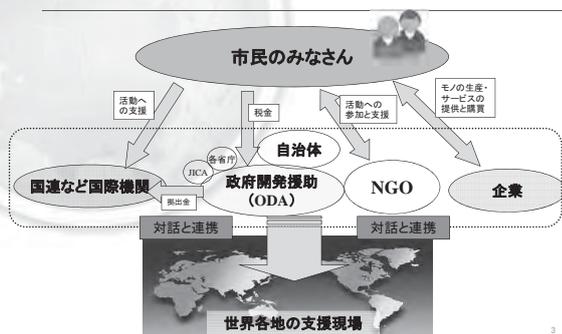
ttomino@janic.org

1989年早稲田大学法学部卒業
2007年早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学修士課程修了

大学卒業後、富士通株式会社に就職。約17年間の海外営業、インドネシア駐在(1995年~2001年)を経て、2006年よりJANICに勤務、2007年より現職。

現在は、NGOの理解促進・支援者拡大、NGOと他セクターの連携促進、ファンドレイジング、NGOの人材育成・基盤強化を中心に活躍中。

国際協力を支える多様なアクター



JANICとは -NGOを支援するNGO-

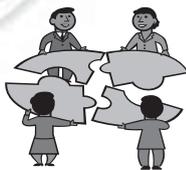
JANICは、ネットワーク型NGOです。
NGOとNGO、NGOと企業、市民、政府・自治体などをつなぐ役割を担っています。
JANICは、「ネットワーク」を通じて、

もっとNGOの活動を活発にします
もっとNGOの声を大きくしていきます
もっとNGOのことをわかりやすく伝えます
もっとNGOと市民が出会う場をつくります



自分がJANICで目指していること

人と人、組織と組織を「つなぐ」ことで、個々の力(強み)を最大限に活かし、弱みを補い、一国や一機関の努力だけでは解決が困難な地球規模の課題解決を目指したい。



JANICの仕事



JANICの仕事



JANICの仕事



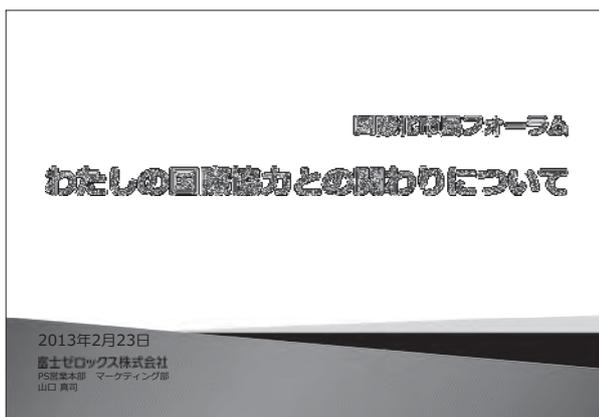
これまでのキャリア(NGOで働くまでの道のりマップ)

	仕事	海外経験	学校・勉強	NGOとの関わり
1985				
1986				
1987				
1988				
1989				
20代				
1990				
1991				
1992				
1993				
1994				
1995				
1996				
1997				
1998				
1999				
30代				
2000				
2001				
2002				
2003				
2004				
2005				
2006				
2007				
2008				
2009				
2010				
2011				
2012				
40代				



● 各登壇者より発表

(1) 山口 真司氏 富士ゼロックス株式会社 プロダクションサービス営業本部マーケティング部



山口 真司氏

私は普段富士ゼロックスで働いているが、週末はNPOの活動に関わっている。本日は、どういうきっかけで国際協力に携わるようになったのかを話したいと思う。

まずは、自己紹介

名前：山口 真司

Hey, Forward!

© 2013 Shinji Yamaguchi All rights reserved. 2

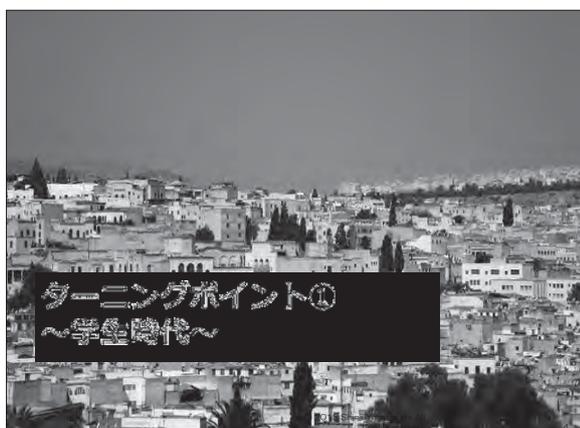


異文化へ飛び込め!

- ▶ アメリカ
 - 初めての一人旅
 - 異文化の魅力
- ▶ インドネシア
 - ホームステイ
 - 無償の優しさ
- ▶ モロッコ
 - 悪人との出会い
 - JICAとの出会い

© 2013 Shinji Yamaguchi All rights reserved. 5

私のターニングポイントは、学生時代と社会人になってからの2つの経験である。



大学生の時にアメリカへ行き、異文化を実感した。異文化の魅力にはまって英語を学び、1年間大学を休学して世界を放浪していたことがある。その際にインドネシアを訪れ、知らない人の家に2週間ホームステイをさせてもらった。そこではお金を請求されることもなく、2週間、人の優しさに触れた。そこで「自分もその恩送り(ペイフォワード)」をしたいと思い、帰国後ホームステイの受け入れなどを行うようになった。別の時に、モロッコを旅行中、泥棒に遭いそうになった経験がある。その際に助けてくれたのが、現地のモロッコ人だった。話を聞くと、以前モロッコで活動していた青年海外協力隊の隊員に世話になったことがあるという事だった。そこで初めて「青年海外協力隊」の存在を知ることになる。



富士ゼロックスには「ソーシャルサービス制度」という社会福祉施設や青年海外協力隊等で社会奉仕活動をする場合、3ヵ月から2年の範囲でボランティア休職を申請し取得することができる。私はそれを利用し、「コンピュータ技術」という職種で、2年間ガーナで活動した。

帰国後富士ゼロックスへ復職し、CSR部ではないが、マーケティング部の一員として「物売る仕掛け」を作っている。

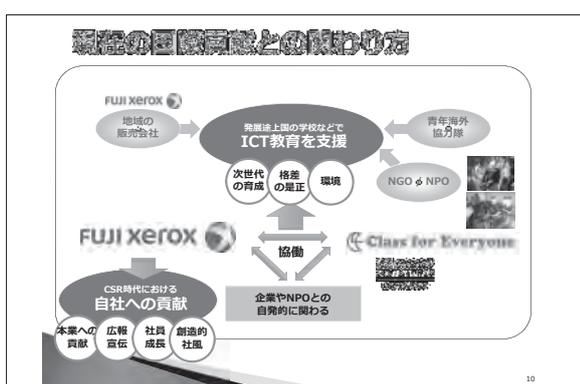
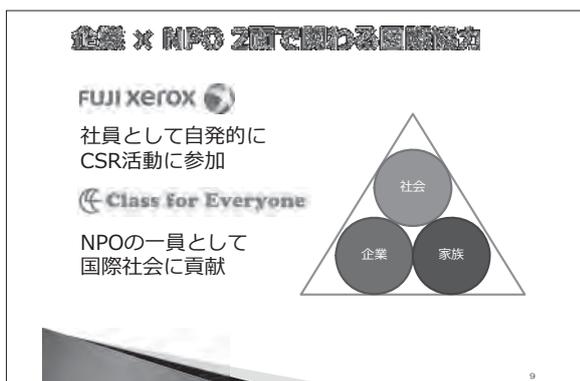
CSR活動、ボランティアの経験

- ▶ 会社を休職
- ▶ 協力隊へ参加
 - ガーナの高校で2年間ICT教育に携わる
- ▶ CSR部との交渉
- ▶ 出来ることを実践
 - 一人のために、ITと

© 2013 Shinji Yamaguchi All rights reserved. 7



現在どのように国際協力に関わっているかと言うと、富士ゼロックスで働きながら、NPO 法人 Class For Everyone で理事を務めている。CSR 活動は社員全員がすべきことだが、そこでできないことを NPO でしている。



NPO 法人 Class For Everyone では、ラオスの学校にパソコンを届け、先生のスキルアップを向上する手伝いをしている。フィリピンではスラムにパソコン教室を設立し、実践的なスキルを教育する機会を提供し、職につながるためのきっかけ作りを行っている。



私自身は学生時代から国際協力に興味があったわけでもなく、ガーナに行ったのも興味があったからである。しかし実際現地へ行き、まず自分でできることを始めることが重要である事に気づいた。次に繋がる、繋がらないは、やってみないと分からない。行動することが「次につながる」ための第一歩ではないかと考える。



パソコンを寄贈したい(してほしい)という人がいたらご紹介ください。



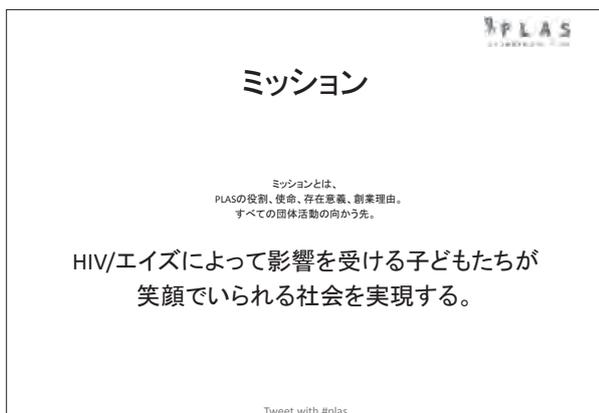
(2) 門田 瑠衣子氏 エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表理事



門田 瑠衣子 氏

今日は NGO の立場から話をさせていただく。私自身は九州出身であるが、進学のため東京に来て、大学院へ進学し国際協力に携わるようになり、NGO を立ち上げた。学生時代からこの活動を始め、現在はお給料をもらいながら続けている。

NGO PLAS ではウガンダ共和国、ケニア共和国でエイズ孤児支援活動を行っている。エイズ孤児はなかなか学校へ行けなかったり、行っても3年生4年生で中退してしまったりする子どもが多い。これまで320人が私たちの支援を受けて学校へ通えるようになった。また、母子感染しないようウガンダ共和国とケニア共和国で、大人に対してエイズ教育を行ってきた。



各事業の中期、中長期計画の策定



Tweet with #plas

講演



Tweet with #plas

その他様々な仕事

- 国内の啓発キャンペーン事業
- 企業渉外
- 事務仕事
- イベント企画・運営

Tweet with #plas

私自身の国際協力と関わるきっかけは、大学の授業での平和学との出会いである。

国際協力と関わるきっかけ

Tweet with #plas

その授業の中で、フィリピンのバナナは日本にかなり安く入ってくるが、現地では労働者が低賃金で働いているとか、中には子どもが学校へ行かずに働いているということを初めて知って、非常に大きな衝撃を受けた。その時は、海外に興味はなかったが「これは他国の他人の問題ではない。自分の問題である」と実感した。

大学の授業



岡本 三夫、1999年、『平和学の現在』法律文化社

鶴見良行、1982年、『バナナと日本人』岩波新書

Tweet with #plas

私たちの生活は世界とつながっている。世界の誰かが食物を作っていて、私たちはそれらを安く手に入れ食べている、世界と私たちは無関係ではないと感じた。

私たちの生活は世界とつながっている



日本人が1週間に食べる食糧。私たちの生活は世界と直接つながっている。

Tweet with #plas

それから大学3年生の時に、パソコンで「フィリピン ボランティア」で検索して、1番上にヒットしたNGOへすぐにボランティアへ行った。

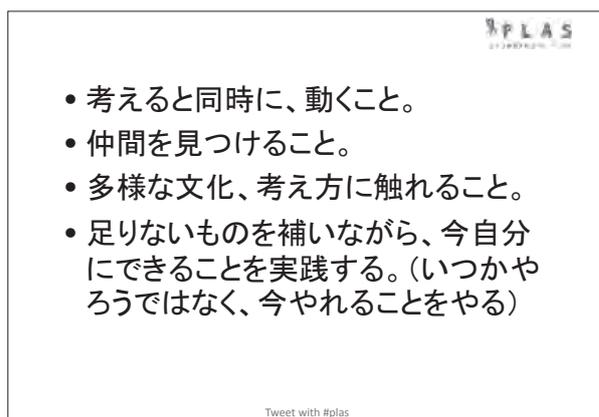
春休みを使って1か月間、フィリピンの孤児院でボランティアをした。



これがきっかけで「もっと国際協力について勉強したい」と思い、大学院へ進学した。その大学院でアフリカの研究を少ししていたので「次はアフリカにも行ってみよう」と思いケニア共和国へ行った。そこでケニア人だけで運営しているNGOで、1か月間ボランティアをさせてもらった。小さな島でのボランティア活動で、そこでは医師が1人という状況だったので、医師の抱持をしながら訪問医療の手伝いをさせてもらった。そこで1番感動したことは、ケニア人のボランティアが、自分の身を削って、ケニア人の子どものために活動している姿だった。私は恵まれていて、大学へ行き、大学院へも進学し「これからどうしようかな」と贅沢な悩みを持っていたが、ケニア人のボランティアは自分の仕事を投げ打ってでも、子どもたちのために貢献している姿に感銘を受けた。



その現状を見て「私にももっとできることがあるし、しなければいけない」と思い、日本に帰国した。それから数か月後、再びケニア共和国を訪れ、孤児院へ連れて行ってもらった。そこでHIVに感染している赤ちゃんや、親がエイズを発症して育てられない子どもたちに出会い、衝撃を受けた。元々、私自身子どもが大好きということもあり、日本へ帰国してから現在のPLASという団体を立ち上げ、活動している。立ち上げたばかりの頃は、3か月間アフリカへ行き、3か月間日本に滞在、それから3か月間再度アフリカへ行くということをしていった。最初は自分のお給料がない状態だったので、残りの3か月は日本で保険関係のアルバイトをして団体の活動を続けた。そのような状況が2年続いたが、少しずつ状況が変わり、今はPLASの専従である。



国際協力に携わる上で大切にしていることが4つある。その1つが「考えると同時に動くこと」である。最初にフィリピンへ行ったときは英語が全くできなかったが、動いてみる事で必要なこと、身に着けるべきことが見えてきた。2つ目は「仲間を見つけること」。

大学では心理学を専攻していたので、国際協力の話をしても興味を持ってくれる人がクラスメイトにはいなかった。しかし、活動する中で仲間が増え、共感し、後押ししてくれる人が増えた。3つ目は「多様な文化と考え方に触れる事」、4つ目は「足りない事を補いながら今自分にできることを実践する事」がとても重要であると考え、「いつかやろう」

ではなく、今できることをやってみる。私の場合は「国際協力を仕事にしよう」と思ったが最初は難しかった。ボランティアから始め団体を立ち上げたが、それでもすぐには仕事にはできなかった。しかし、今できることを少しずつ積み重ねることで、自分のやりたい事が明確になり、できる事が増えていくのではないかと自分の経験を通して学んだ。



(3) 笹生 健司氏 千葉県総合企画部国際課副課長

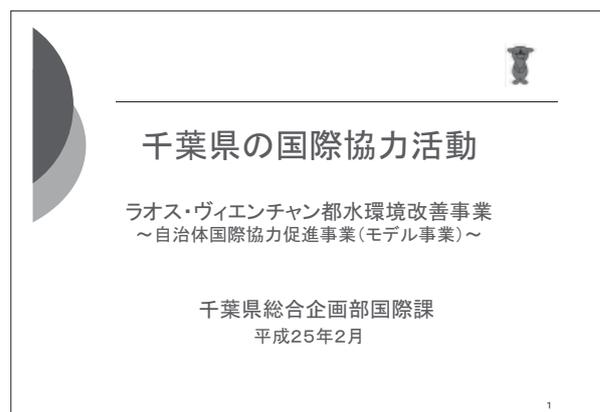


笹生 健司氏

私は自治体という立場からお話をさせていただく。他の登壇者のように自分でキャリアを切り開いてきたわけではなく、組織の中で業務として国際協力を携わっている立場であるが、自治体がどのように国際協力と関わっているかについてお話ししたいと思う。

私は20代初めに千葉県庁に入庁して以来、ドメスティックな業務に携わってきたが、大学時代にドイツ語を勉強したこともあり、海外に関する業務に携わりたいという希望をもっていた。そのとき、貿易研修センターの研修の募集があり申し込んだところ、英語や貿易実務及び国際経済学などを、民間

企業で将来海外赴任される方々といっしょに学ぶ機会に恵まれた。その後、JETRO（日本貿易振興機構）への派遣でドイツのデュッセルドルフに駐在した。帰国後は経済振興課というところで、国際会議の誘致等に携わった。当時シンガポールに県の事務所をつくる話があり、その業務にも関わった。他にもさまざまな課へ異動したが、企業立地課では外資系企業の誘致にしばらく従事した。そして現在、国際課で国際交流や国際協力等の業務に携わっている。



今年度、本県では、ラオスのヴィエンチャン都において水環境改善事業を実施している。ヴィエンチャンでは近年、経済成長に伴い都市化・工業化が急速に進行しているが、まだ下水道が整備されておらず、生活排水がほとんどそのまま河川に流されている。

ラオス人民民主共和国 

人口: 632万人 (2008年)
面積: 236,800km²

- ・社会主義国 (一党独裁制)
- ・中央集権的
- ・後発開発途上国



2

ヴィエンチャン都の現況

人口: 70万人 (2005年)
面積: 3,920km²

(千葉県)
人口: 621万人 (2010年)
面積: 5,156km²



3



千葉県の国際課では、これまで5年間、ベトナムのハノイ市において下水処理施設の維持管理に対する支援を行ってきた。下水処理施設は微生物を使って水を浄化するもので、微生物管理が重要である。ハノイ市での事業が、ひと段落したこともあり、次なる国際協力事業の対象を探していたところ、ラオスのヴィエンチャン都が浮上し、新たな地で事業を開始することになった。

事業の背景

- 1 急速な都市化・工業化の進展
- 2 後発開発途上国
- 3 ベトナム(ハノイ市)での経験

6

Location Map (Vientiane)

JICA/ヴィエンチャン市水環境改善計画調査より

7

市内河川の様子(1)

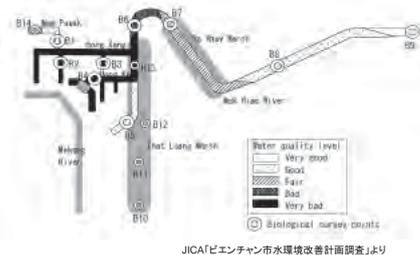
8

市内河川の様子(2)



9

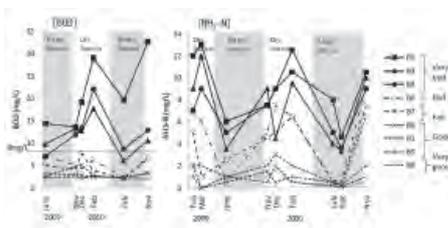
Schematic Diagram of Water Quality Classification of the Mak Hiao River Basin



JICA「ビエンチャン市水環境改善計画調査」より

10

Observed Water Quality at Each Survey Point



JICA「ビエンチャン市水環境改善計画調査」より

11

今回の事業は財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) の補助事業であるが、ゆくゆくは JICA の草の根支援事業も申請し、5年間程度継続していきたいという展望を持っている。

事業の概要

事業期間：24年度(25年度については申請中。)

スキーム：財団法人「自治体国際化協会」自治体国際協力促進事業(モデル事業)

内容：ヴィエンチャン都・天然資源環境局 (DONRE) を対象に、水環境保全分野における千葉県の知識・経験・ノウハウを伝える。
DONRE : Department of Natural Resources and Environment

12

本事業のミッションは、ヴィエンチャン都の組織である天然資源環境局を対象に、本県の水環境保全分野における知識、技術、経験、ノウハウを伝えるというものである。我々の目的は、ヴィエンチャン都の水環境に携わる職員の能力を向上させることであり、ハードの整備は行わない。具体的には水質のモニタリングや工場の立ち入り検査、採取した水の分析方法等について技術的な指導を行う。また今後は、住民に対する環境教育の方法についても支援を行う予定にしている。

支援事業の内容

- ①水環境行政職員等の能力向上
- ②水質モニタリング(公共用水域及び工場排水)及び分析法の技術的指導
- ③環境教育のワークショップ

13

事業スケジュール

- ①専門家(4名)のラオス派遣(7月17日~21日)
 - ・千葉県紹介、水質分析、モニタリング等の技術指導
 - ・現地関係機関との協議 など
- ②専門家(5名)のラオス派遣(11月12日~17日)
 - ・水質分析、モニタリング等の技術指導、日本の法規制、立入検査、工場排水処理方法等の講義
 - ・現地関係機関との協議 など
- ③ラオス研修員(3名)受入(2月24日~3月2日予定)
 - ・県環境研究センター等での技術指導
 - ・関連施設の視察 など

14

活動の様子(7月)



15

活動の様子(7月)



16

活動の様子(11月)



17

活動の様子(11月)



18

活動の様子(11月)



19

活動の様子(11月)



20

水環境分野においては、千葉県だけがラオスを支援しているのではなく、他のドナーも支援を行っている。JICAでも公共施設整備支援の観点から事業を実施されており、私たちが連携を保ちながら事業を進めている。

研修員の受入(予定)

- ・2013年2月24日～3月2日
- ・DONRE職員3名

- ①県環境研究センターでの水質分析研修
- ②サンプリング(採水)実習、工場排水施設視察
- ③花見川第一終末処理場、手賀沼親水公園視察

21

水環境分野の他のドナー

- EMSP(フィンランド)
 - ・事業期間2010～2014。SIDA(スウェーデン)の環境管理強化プロジェクトフェーズⅡ(5年間)を実質的に引き継いで実施している。
 - SIDA: Swedish International Development Cooperation Agency
 - EMSP: Environmental Management Support Programme
- JICA(日本)
 - ・ビエンチャン市水環境改善計画調査(2009.1～2011.7)を実施。2020年を目標年次とするマスタープランを作成。
 - ・2012年に「首都ビエンチャン都市水環境改善プロジェクト/技術協力プロジェクト」を採択。

22

最後に、事業の課題をいくつか述べたい。ヴィエンチャン都側では国レベルでも地方レベルでも指導者が不足している。それから、予算が十分に確保できないため、サンプリングや水質分析の機材等を買うことができない。また、色々なドナーが施設を造っても、その維持管理ができていない。「法の運用」の面でも、環境関連の基本的な法律は外国の支援で整備されたものの、それを実際に運用するための細則やマニュアル等がないためうまく運用されていない。

また、県側の問題点としては、財源の問題がある。現在この事業は補助事業として実施しているが、一般財源を使おうとすると、財政当局から具体的に県のためにどのように役立つのかという説明を求められる。しかし、県の持っている技術、ノウハウ、経験は貴重な資源であり、それを途上国を助けるために使うという無償の善意の動機ということでなければ説明はなかなかむずかしいと思う。

また、関連する技術者が多忙でラオスまで行く時間をつくり出すことがむずかしいということもある。東日本大震災の影響を受け、本県でも多くの方が被

災している。そのような中で、どうして海外へ行く必要があるのか、という意見もある。

事業の課題

(ヴィエンチャン側)

- ① 指導者の不足(国レベル・地方レベル)
- ② 予算の確保
- ③ 施設の維持・管理
- ④ 法の運用
- ⑤ コミュニケーション(英語力)
- ⑥ 加速する都市化・工業化

(千葉県側)

- ① 財源の確保
- ② 従事技術職員の確保

23

ຂອບໃຈ.

Thank you.

24

(4) 宇都 喬之氏 横浜国立大学公認 国際協力サークル Tree of Message



宇都 喬之 氏

今日は Table For Two(以下 TFT)の活動と一学生として私と国際協力」というテーマで話したい。

発表の流れ

1. TABLE FOR TWO との関わり
2. 一学生としての「わたしと国際協力」

2

平成24年度 国際化市民フォーラム
第1分科会 『実践者から学ぼう！国際協力のシゴト、はじめの一歩』

一学生の「国際協力」

横浜国立大学公認 国際協力サークル Tree of Message (ToM)
宇都喬之

ToM

私は他の登壇者と比べたら、学生と言う立場であることから経験も未熟であるが、学生の立場から国際協力実施の形を紹介したい。

自己紹介

宇都喬之(うと たかゆき)

- 横浜国立大学 教育人間科学部 4年(今春卒業予定)
- 来年度より同大学大学院に進学予定

3年次にTABLE FOR TWOの活動を知り、未実施である学内へのTFTプログラム導入を目指すため、国際協力サークル「Tree of Message (ToM)」を設立。昨年5月より学食にてTFTプログラム開始。これまでにアフリカの子どもたちへ届けた学校給食は延べ4000食以上。

また、2011年12月～2012年8月にわたり国際協力NGOセンター(JANIC)でインターン活動に従事。渉外業務を担当し、主に企業や労組、自治体との連携推進事業を経験。

3

先進国ではカロリー過剰摂取のような問題があるが、途上国では飢餓という状況がある。企業の社食やカフェにヘルシーメニューを提供して、1食につき20円を途上国に寄付するという単純・簡単な仕組みがTFTである。

1. TABLE FOR TWO との関わり

4

大学生もこの活動に参加しており、自分の大学の学食やカフェに TFT 導入を働きかけている。私は大学 3 年生の時に TFT を知り、自分の大学に Tree of Message(以下 ToM) を設立した。学内で食事を提供している生協等へ働きかけ、実施している活動である。

まだ 1 年経っていないが、軌道に乗り始めた。昨年は、9 か月間 JANIC でインターンとして活動し、国際協力について勉強した。

TFT に興味を持った最初のきっかけは、ゼミの後輩に誘われて参加した TFT University Association が参加していたイベント(約 20 団体が参加。TFT は参加団体の 1 つ)へ行ったことである。そこで TFT と出会い、自分の大学には TFT がないことを知り、導入を目指そうと思うようになった。

きっかけ

- 後輩の誘いで、国際協力系の学生団体による新歓イベントに参加
- TABLE FOR TWO の活動に取り組んでいる「TABLE FOR TWO University Association」の方と出会い、横浜国立大学では TFT が未導入であることを知る
- 身近な存在である大学生が、各大学で TFT の活動に取り組んでいることに共感、自身の大学への導入を目指すことを決意

5

横浜国立大学での活動のようす



6

2. 一学生としての「わたしと国際協力」

7

私個人としての国際協力の関わりで、大切にしている事が 3 つある。その 1 つが「途上国で活動する事だけが国際協力ではない」ということだ。私自身は途上国へ行っておらず、活動範囲は大学内と狭いが、日本を含め世界のどこにいても国際協力はできていると思っている。

2 つ目は、他者からの様々な協力が大きな力となる。サポートしてもらうことで、自分だけでは出せない大きな力を出すことができる。3 つ目は「相手を思う」ことだ。自分のやっている事は良いことだ、というような思い込みがでてきやすいが、自分が良いと思っている事が必ずしも相手にとって良いとは限らない。相手の事を思い描き「相手のためになっているか、この方法でいいのか」と常に自分に問いかけている。

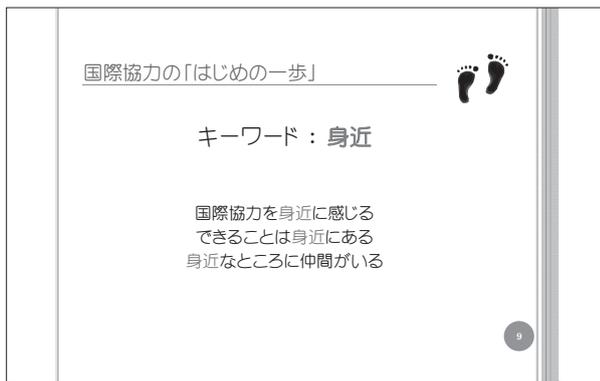
国際協力で心がけていること

- 途上国で活動することだけが「国際協力」ではない
— 日本/外国という枠を取り払う
- 様々な協力が大きな力となる
— ひとりに出来ることは限られている
- 常に「相手」を想うこと
— 自らの行いを疑ってみること



8

自分や周りの人が一歩を踏み出すために大切なキーワードがある。それは「身近」ということだ。



なぜ「身近」がキーワードなのか、3つの理由を説明する。1つ目は、私のような普通の人間でも、国際協力を携わることができる。身近に、気軽に参加できる国際協力の形がある。2つ目はTFTの

ように「食べる事 = 日常生活」という身近な行為が国際協力を繋がる。3つ目は「身近なところに仲間がいる」ということ。私の経験として、TFTを始めるに際して仲間を集めるために、身近なゼミの仲間にアプローチすることから始め、それぞれが所属するサークルで声掛けし波及していき、協力してくれるメンバーが集まった。潜在的に国際協力に関心を持っている人はたくさんいるので「身近なところに仲間がいる」と信じて、身近なところからアプローチしてみると大きな力が創出されるのではないだろうか。

食べる社会貢献。

1 TABLE FOR TWO

TABLE FOR TWOとは、食の不均衡を解消するためにつくられた、日本発の社会貢献活動です。対象となる定食や食品をご購入いただくと、1食につき20円の寄付金がTABLE FOR TWOを通して開発途上国の子どもたちの給食になります。20円というのは、開発途上国の給食1食分の金額です。つまり、1食食べることにより、1食が贈られるという仕組みです。また、対象となる食品は、カロリーが抑えられたヘルシーな食品であるため、先進国側の食の過多の問題の解消にも繋がります。このように、TABLE FOR TWOは、開発途上国と先進国の健康の問題を同時に解決することで、食の不均衡を解消しようとしています。

問い合わせ先： tftua@tablefor2.org

● まとめ

富野：「国際協力」への関わりは色々な形がある。NGO や行政、企業の活動に参加する、TFT の食事をする、フェアトレード商品を購入する、ということも国際協力である。

仕事として国際協力に関わる上で「専門性や資格が必要か？」という質問がよく寄せられるが、国際協力の道は多種多様なので、自分の方向性が見つかるまで「今すぐ何かしなくては！」と焦る必要はない。国際協力に関わるには「旬」はないのである。国際協力の活動に色々な形で参加することが重要である。私自身も、企業で海外営業を経験し、40代で大学院へ進学し、JANIC に就職した。大

学院時代に、JANIC でボランティアを始めたのがきっかけになっている。国際協力には多様なパターンがあるので、自分の関心分野や問題意識に基づいて気になる NGO の報告会へ行くなど、関心のあるところから一歩踏み出してもらいたい。

本日の分科会は私自身も大変勉強になった。それぞれの登壇者の話を拝聴する中で「まずはアクションをとる」ということが重要であると改めて感じた。この分科会が、ご参加くださった皆様にとって具体的に「一歩を踏み出す」きっかけになれば幸いである。

※このあと、質疑応答あり



- テ – マ 「わかる日本語」による情報提供 ～新たな取組を紹介！
- ね ら い 「わかる日本語」は、多言語による情報提供を補完するばかりでなく、みんなにわかりやすく情報提供するという意味で、多文化共生社会や高齢化社会などに幅広く門戸を開くツールです。
「わかる日本語」を広めるための試みは着々と進んでおり、ここではその新たな取組についてご紹介し、今後の展望を探ります。
- コーディネーター 梶村 勝利（東京日本語ボランティア・ネットワーク代表）
- 基調講演 庵 功雄（一橋大学国際教育センター・言語社会研究科 准教授）
越智 慎司（NHK報道局ネット報道部 専任記者（制作））
- パネリスト 薄場 郁子（荒川区区民生活部文化交流推進課都市交流係長）
倉田 広（練馬区区民生活事業本部地域文化部地域振興課事業推進係長）
- 参加者数 56名

■分科会の構成■

- 基調講演 1 「やさしい日本語」研究の展開
- 基調講演 2 NHK「NEWS WEB EASY」について
～「やさしい日本語」でニュースを書き換える研究と取組～
- 事例報告 1 「わかる日本語」による情報提供
～外国人のための生活便利帳作成の取組～
- 事例報告 2 やさしい日本語でいってみよう！
- パネルディスカッション

● コーディネーターより挨拶

梶村 勝利氏（東京日本語ボランティア・ネットワーク代表）

日本語を母語としない人への情報提供については、英語・中国語・韓国語などへの翻訳、多言語化は進んではいるが、それには限界がある。また、その発信された情報が、受け取る人に対して伝わらないと意味がない。どのようにしたら発信された情報が手元に届くようになるのかということが大きな問題になっている。そういったところで、今、「やさしい日本語」「わかる日本語」について議論されるようになってきている。日常生活におけるいろいろな情報を、やさしい日本語、わか



梶村 勝利氏

りやすい日本語で発信するにはどうしたらいいか、
各自治体や国際交流協会の現在の実態を、これか

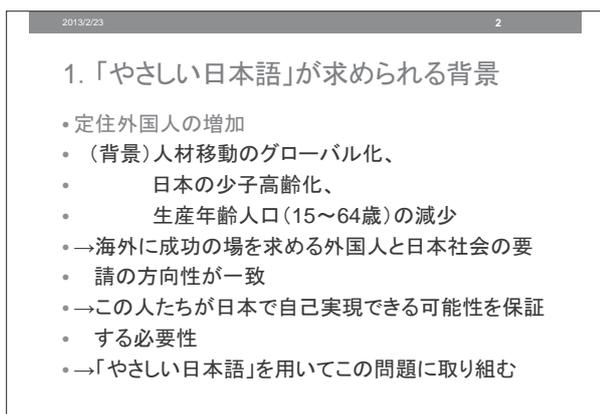
らお話していきたい。

● 基調講演 1 「やさしい日本語」研究の展開

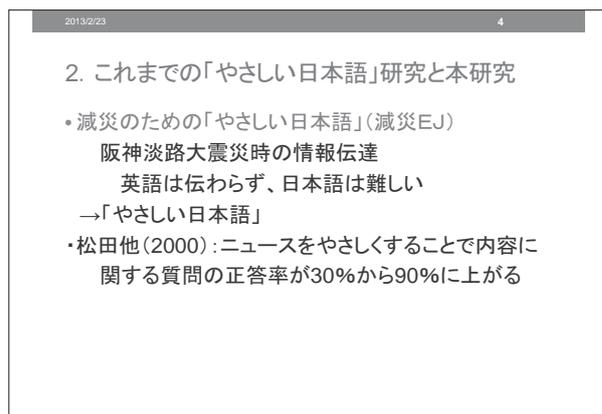
庵 功雄氏（一橋大学国際教育センター・言語社会研究科 准教授）



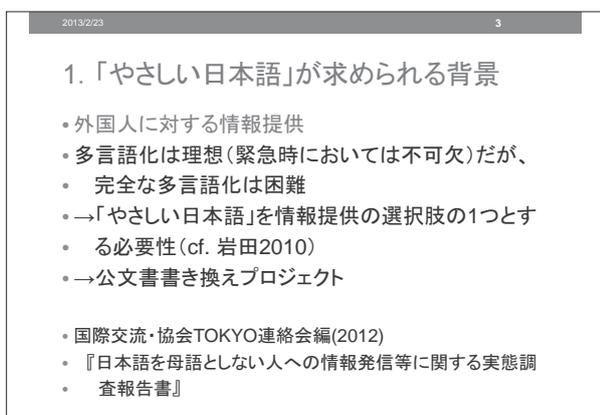
庵 功雄 氏



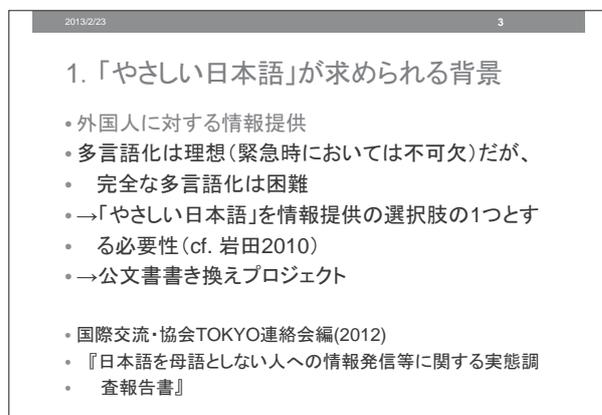
↑ 定住外国人 = 1990年代以降定住することとなったニューカマーの増加



↑ 阪神淡路大震災時の情報伝達



↑ 完全な多言語化は困難



↑ 「やさしい日本語」への言い換え

2. これまでの「やさしい日本語」研究と本研究

- 本研究の立場
- 「やさしい日本語」は災害時だけでなく、平時でも必要
- 文法、語彙の双方から客観的に「やさしい日本語」を考える
- → 庵 功雄(2009、2013近刊)
- (本研究の成果報告書—中間報告—)
- 庵 功雄編(2011)「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」
(<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/19320>)
-

↑「やさしい日本語」 本研究の立場

3. 「やさしい日本語」とは何か

- ミニマム(最小限)の文法
- 学校型日本語教育の「初級」は、地域型日本語教育にとっては「重い」
- 地域型の実情に合った「初級」(「地域型初級」)を考える必要がある
- 適当に間引くのではなく、外国人が自らの言いたい内容を不足することなく表現できることを保証する
- → ミニマムの文法としてのStep1, Step2
- → 外国人が少ない材料で能動的に自分が言いたいことを日本語で表現できることを目指す(イ2009)

↑外国人が少ない材料で能動的に自分が言いたいことを日本語で表現できることを目指す

3. 「やさしい日本語」とは何か

- 補償教育(山田2002)
- 新来外国人の生活を言語的にどのように保証するか
- 多言語化は理想だが、完全な多言語化は困難
- → 日本社会を多言語化することが困難であることを日本側がわび、その代わりに自己実現を可能にする一定以上の日本語能力が習得できる機会を「償い」として補償する(補償教育。山田2002)
- こうした補償教育の対象となる日本語を、本研究における「やさしい日本語」と定義する

↑「やさしい日本語」とは、補償教育であるとの立場

3. 「やさしい日本語」とは何か

- 「地域型初級」の必要性
- 学校型日本語教育と地域型日本語教育(尾崎2004)
- 学校型 地域型
 - 契約関係 出入り自由
 - 教えるのはプロ 教えるのはボランティア
- 「学校型」における「初級」の目安は300時間
- 「地域型」の標準は週2時間→「初級」を3年?
- → 地域型日本語教育の実情に合った「初級」(「地域型初級」)の必要性(→『にほんごこれだけ! 1, 2』)

↑地域型日本語教育の実情に合った「初級」(「地域型初級」)の必要性

3. 「やさしい日本語」とは何か

- 地域社会における共通言語としての「やさしい日本語」
- <これまで>
- 外国人側に一方的に日本語習得を要求
- <これから>

日本語母語話者<受け入れ側の日本人>
↓ コード(文法、語彙)の制限、
日本語から日本語への翻訳
やさしい日本語(地域社会における共通言語)
↑ ミニマムの文法(Step1, 2)と語彙の習得
日本語ゼロビギナー<生活者としての外国人>

↑「やさしい日本語」とは、地域における共通言語
→受け入れ側の日本人も一定程度学ぶことが必要

4. 公文書書き換えプロジェクト

- Step1, 2を学んだ外国人が、自治体が発行している公文書(お知らせ)を読むようにする。
- 最終的には、公文書を「やさしい日本語」に書き換える自動翻訳システムを開発する(ほんやくこんにやくプロジェクト)。
- 自治体から提供された公文書を日本語教育経験10年以上の日本語教師の手で書き換える。

↑公文書書き換えプロジェクト

4. 公文書の特徴

- ◆ 公文書における受身の多用
 - ・ 受身は責任の主体を隠す場合が多い。
 - ・ 受身の方が能動文より処理に時間がかかる。
- 必要ではない限りは受身を使わないように努力してみる。

↑ 公文書には受身が多い→必要でない限りは、
受身を使わないように努力すべき

6. まとめ—「やさしい日本語」の展開—

- ・ 補償教育の対象としての「やさしい日本語」
- 「初期日本語教育の公的保証」実現に向けて働きかけを
 - ・ 続けていく
- 「やさしい日本語」は、「外国人はこのレベルで十分だ」と
 - ・ 主張するものではない
- より上位の日本語能力を身につけたいと考える学習者に
 - ・ 対して、その学習の機会を保証 (Step3～Step5)
- 日本語教育の新しい枠組みの創出 (地域型と学校型の高
 - ・ 次の融合)
- EPAによる看護師候補生に対する日本語教育 (岩田・庵
 - ・ 2012)

↑ 「やさしい日本語」の展開
～日本語教育の新しい枠組みの創出へ～

4. 書き換えについて

- ・ 現在は自治体から発行された公文書(アウトプット)を対象に書き換えている
- 書き換えるかどうかについての判断を書き換え者がしなげ
ればならない(「支援システム」が必要)
- ・ 公文書作成側に、書き換えに対する「不信感」が残る可能性
- 公文書を作成する際に、言語学者・日本語教育関係者が参
画し、自治体関係者と協働する
- 読み手(サービス受益者)にとって「やさしく」、公文書としての
品格を守った書き換えが可能になる
- 自動翻訳システムの精度も飛躍的に向上する可能性

↑ 書き換え時の問題点と対策

6. まとめ—「やさしい日本語」の展開—

- ・ 「やさしい日本語」は「定住外国人(大人)」を対象に出発
- 外国人児童・生徒への展開
- ・ 志村ゆかり(代表)「数学サバイバル日本語—中学1年—」
- ・ http://www.geocities.jp/wakamenokai_jsl/top/koredewakaru.html



↑ 「やさしい日本語」の展開
～「やさしい日本語」の対象を外国人児童・
生徒へ～

5. 「やさしい日本語」ニュースの重要性

- ・ NHK「やさしい日本語」ニュース (News Web Easy) の特徴
- ・ <http://www3.nhk.or.jp/news/easy/> (田中ほか2013近刊)
- ✓ 毎日最新の情報を「やさしい日本語」で得られる。
- ✓ 「やさしい日本語」版と通常版が対応できる。
- ✓ → 地域日本語教室、海外での使用が可能。
- ✓ 定住外国人が独学で日本の情報にアクセスできる可能性。
- ✓ 日本人の子ども、障がい者による利用。
- ✓ 公開にあたって、書き換え者と報道部が協働体制で書き換え
を行っている。
- ✓ → 公文書ではまだ実現していない協働体制が実現している。

↑ 「やさしい日本語」ニュースの重要性

6. まとめ—「やさしい日本語」の展開—

- ・ 「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション社会
実現のための総合的研究(本研究の課題)
- 「ユニバーサルコミュニケーション社会実現」に向けて
- 「情報弱者」(外国人、高齢者、子ども、障がい者...)への
情報提供の手段としての「やさしい日本語」の研究
- 聴覚障害者(ろう者)に対する日本語教育(これからの研
究課題)(cf. 岡2013近刊、あべ2013近刊)。
- ★ 「やさしい日本語」の多様な展開については、庵・イ・森編
(2013近刊)をごらんください。

↑ 「やさしい日本語」の展開
～ユニバーサルコミュニケーション社会実現
のために～

5. おわりに

- ・「やさしい日本語」は、平時においても(平時においてこそ)必要となる概念
- ・「やさしい日本語」は、これからの日本社会が外国人を迎え入れ共生していく上で、不可欠な概念
- ・「やさしい日本語」は、自治体が市民に向けて情報を発信していく際に必ず考慮しなければならない概念
- ・「やさしい日本語」は、日本社会が社会的弱者をその中に迎え入れ、発展していく上で基礎となる概念
- ・「やさしい日本語」は、現在発展を続けている概念
- ・「やさしい日本語」は、みなさん1人1人がこれからすぐに実践できる概念

「やさしい日本語」の概念

- ・ 庵 功雄・岩田一成・森 篤嗣(2011)「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え」『人文・自然研究』5、一橋大学 ([http://hermes-ir.lib-hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/19016/2/jinbun0000501150.pdf](http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/19016/2/jinbun0000501150.pdf))
- ・ 庵 功雄・イ・ヨンスク・森 篤嗣編(2013近刊)「やさしい日本語」は何を目指すか』ココ出版
- ・ 岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向」『社会言語科学』13-1、社会言語科学会
- ・ 岩田一成・庵 功雄(2012)「看護師国家試験のための日本語教育文法 必修問題編」『人文・自然研究』6、一橋大学 (<http://hermes-ir.lib-hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/22982/2/jinbun0000600560.pdf>)
- ・ 岡 典家(2013近刊)「ろう児への日本語教育と「やさしい日本語」」庵・イ・森編(2013近刊)
- ・ 尾崎明人(2004)「地域型日本語教育の方法論的試論」小山悟他編『言語と教育』くろしお出版
- ・ 佐藤和之(2004)「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23-8、明治書院
- ・ 東京都国際交流委員会・国際交流・協力TOKYO連絡会(2012)「日本語を母語としない人への情報発信等に関する実態調査報告書」(一部を配布) (<http://hermes-ir.lib-hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/23093/1/0491200201.pdf>)
- ・ 田中英輝・美野秀弥・越智慎司・柴田元也(2013近刊)「やさしい日本語による情報提供～NHKのNEWS WEB EASY の場合」庵・イ・森編(2013近刊)
- ・ 野元菊雄(1990)「簡約日本語」『文林』26、松蔭女子学院大学
- ・ 増田麻美子(2012)「公文書の「やさしい日本語」への書き換え」2011年度一橋大学言語社会研究科修士論文
- ・ 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之(2000)「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」『日本語科学』7、国立国語研究所
- ・ 山田 泉(2002)「第8章 地域社会と日本語教育」細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人社

参考文献

- ・ 参考文献
- ・ あべやすし(2013近刊)「情報保障と「やさしい日本語」」庵・イ・森編(2013近刊)
- ・ イ・ヨンスク(2009)「外国人が能動的に生きるための日本語教育」『AJALT』32、国際日本語普及協会
- ・ イ・ヨンスク(2013近刊)「日本語教育が「外国人対策」の枠組みを脱するために」庵・イ・森編(2013近刊)
- ・ 庵 功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法－「やさしい日本語」という観点から－」『人文・自然研究』3、一橋大学 (<http://hermes-ir.lib-hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/17337/2/jinbun0000301260.pdf>)
- ・ 庵 功雄(2012)「「やさしい日本語」の本質とその必要性」『東京日本語ボランティアネットワーク(TNVN) ニュースレター』77号
- ・ 庵 功雄(2013近刊)「「やさしい日本語」とは何か」庵・イ・森編(2013近刊)
- ・ 庵 功雄編(2011)「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」(科学研究費補助金研究成果報告書(中間報告)) (<http://hermes-ir.lib-hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/19320/1/0411100201.pdf>)
- ・ 庵 功雄監修(2010,2011)『「ほんごこれだけ! 1, 2」』ココ出版

参考文献



追加資料では、受身表現の例をあげている。

日本語だけでなく、英語でも受身表現はできるだけ使わない方がいいとされている。

(全米証券取引所ハンドブックより)

- (4) さてもうひとつ、大いに幅をきかせている受身表現がある。『朝日』夕刊の第一面トップは五十三年度の農業白書の内容紹介で、例えばこうなっている。

「大規模農家を中心に、借地などによって規模拡大を図る動きが強まっている。また、世帯主が五十歳以上で跡継ぎのいない農家が約百万戸あるので、今後、中核的農業への土地利用の集積が見込まれる。」「農業を従とする第二種兼業農家は、社会の安定層として地域社会の維持、発展に寄与することが期待される。しかし、出稼ぎ、日雇いなど不安定な兼業もうち三割ほどあるので、雇用の安定に努めるべきだ」。こうしたことが白書のポイント。

右の農業白書の記述が何となく無責任に見えるのはなぜであろうか。傍線の部分が、

……と考えられる ……成行が注目される ……と思われる

……とみられる ……と思い出される

などと同じ、あの悪名高い「自然可能的な受身」になっているせいである。「なすがまま」「なされるがまま」「自然になるようになる」といった調子で書かれている

から無責任な印象を受けるのである。危機に瀕した日本農業を、農民とともに、死にものぐるいで少しでもましな方向へ推し進めていかねばならぬはずの農林水産省が、他人事のように、あるいは宿命論者よろしく、自然可能的な受身表現でレポートを記す。たいした度胸であると感心せざるを得ぬ。白書ぐらい受身抜きで書いてみたらどうなのかね。（井上ひさし『私家版日本語文法』新潮文庫）

(5) passive

The stock is bought by the investor.

In the passive voice the subject, the stock, is acted upon. The person or the thing doing the action is introduced with “by.” But sometimes, the person or thing doing the action is deleted, leading to...

passive with agent deleted

The stock is bought.

You don't know who bought the stock. You'll find many examples of the “passive with agent deleted” in disclosure documents.

Readers understand sentences in the active voice more quickly and easily because it follows how we think and process information. Many times the passive voice forces readers to take extra mental steps as they convert the passive into the active.

(6) **Don't ban the passive voice, use it sparingly**

As with all the advice in this handbook, we are presenting guidelines, not hard and fast rules you must always follow. The passive voice may make sense when

the person or thing performing the action is of secondary importance to another subject that should play the starring role in sentence. Use the passive voice only when you have a very good reason for doing so. When in doubt, choose the active voice. (全米証券取引所 *A Plain English Handbook*.)

表1 原文の受身

順位	語形	頻度	% (累計)
1	行われる	79	6.7
2	支給される	39	10.0
3	される	36	13.0
4	適用される	31	15.6
5	認められる	28	18.0
6	定められる	25	20.1
7	決められる	23	22.0
8	指定される	22	23.9
9	記載される	18	25.4
10	見られる	17	26.9
11	なされる	16	28.2
11	交付される	16	29.6
12	請求される	15	30.8
13	言われる	14	32.0
13	含まれる	14	33.2
13	求められる	14	34.4
16	課税される	13	35.5
17	義務づけられる	11	36.4
18	改正される	10	37.2
18	支払われる	10	38.1
18	設置される	10	38.9
18	発行される	10	39.8
18	発表される	10	40.6
	合計	1184	100.0

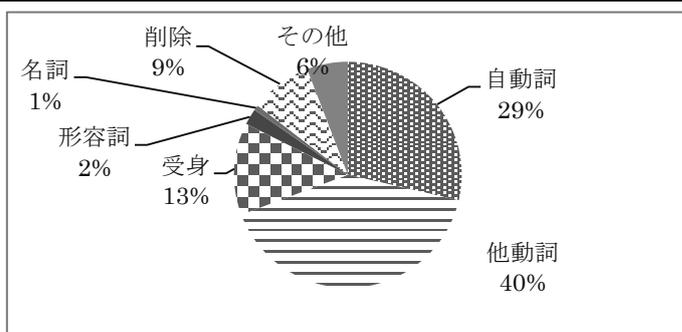


表2 書き換え後の受身

順位	語形	頻度	% (累計)
1	使われる	13	8.3
2	書かれる	12	16.0
3	作られる	9	21.8
4	される	8	26.9
4	決められる	8	32.1
4	行われる	8	37.2
7	発見される	5	40.4
8	お願いされる	3	42.3
8	騙される	3	44.2
8	言われる	3	46.2
8	開かれる	3	48.1
8	集められる	3	50.0
8	選ばれる	3	51.9
8	送られる	3	53.8
8	払われる	3	55.8
8	返される	3	57.7

表3 再書き換え後の受身 (<自><他>はそれぞれ「自動詞」「他動詞」)

順位	言い換え	頻度	% (累計)
1	<他の表現>	15	9.6
1	決まる・決まった・決まっている<自>	15	19.2
3	ある<自>	11	26.3
3	もらう・もらうことができる<他>	11	33.3
4	書いてある・書いていない<他>	6	37.2
5	行う<他>	5	40.4
5	作る<他>	5	43.6
5	使う・使うことができる<他>	5	46.8
8	と言う<他>	3	48.7
8	見つかる<自>	3	50.6
8	守る・守らなくてはならない<他>	3	52.6
8	集める<他>	3	54.5
12	(会を)する<他>	2	55.8
12	する<他>	2	57.1
12	★盗まれる	2	58.3
12	と思う<他>	2	59.6
12	はっきり書く<他>	2	60.9

12	選ぶ<他>	2	62.2
12	届く<自>	2	63.5
12	必要になる・必要だ<自>	2	64.7
12	払う<他>	2	66.0
		156	100.0

【他の表現】

- (7) 撤去された自転車を引き取る場合には、かぎと外国人登録証明書や運転免許証などの身分証明書が必要です。(原)
- (7)' 止めてはいけない所に止めた自転車を係の人がよそに持っていったので、それをもらいたいときは、かぎと外国人登録証明書や運転免許証などの何か身分がわかるものが必要です。(書)
- (8) 撤去されると保管料や移動料を払わないと返してもらえない場合があります。(原文)
- (8)' 係が他の場所に動かしたとき、そこで預かるためのお金、そこまで動かすためのお金を払わなかったら、もらうことができない場合があります。(書)

【決まっている・決まった】

- (10) 11. 本規約は、その成立、効力、解釈及び履行を含め、全ての事項について日本国法令に規律されるものとします。(原)
- (10)' 11.この規則は、できたこと、はたらき、考え方、行い方など全部について日本国の法律などで決まっています。(書)
- (12) 2. 指定された期日までに、広告の原稿を「お問合せ先」までフロッピーディスク、メール等で提出してください。(原)
- (12)' 2. 決まった日にちまでに、広告の元の文を「お問い合わせ先」に、フロッピーディスク、メールなどで出してください。(書)

【ある】

- (15) 初日には、陶芸の森でテープカットなどのオープニングイベントが行われた後、日本六古窯首長サミットが開催されます。(原)
- (15)' 初めの日には、陶芸の森でテープを切ったりする初めのイベントがあつてから、古くから土で作る入れ物を作る日本の 6 つの場所の町長、市長などの方たちの集まりがあります。(書)

【もらう・もらうことができる】

- (17) 家(部屋)の賃貸契約を結ぶと、家(部屋)の鍵が渡されます。(原)
- (17)' 家(部屋)を借りる約束をしたとき、家(部屋)の鍵をもらいます。(書)
- (18) 強制保険の対象とならない対物損害(他人の物を壊すなどの事故)や車両損害(自動車を盗まれる)や、強制保険の対象となる対人損害であっても、事故の賠償額が自賠責保険の支払いを超える損害などのときに支払われます。(原)

(18) みんなが入らなくてはいけない保険とは関係のない物が壊れた損害（他の人の物を壊すなどの事故）や車の損害（車がなくなる）や、みんなが入らなくてはいけない保険でお金をもらうことのできる人についての損害でも、事故で払う金額が自分で決めて入った保険の金額より多い損害などのときにもらうことができます。（書）

【書いてある・書いていない】

(19) あなた(貴団体)に関する情報が記録されている行政文書の公開請求について、次のとおり行政文書を公開することを決定したので A 市情報公開条例第 xx 条において準用する同条例第 xx 条第 x 項に規定により通知します。（原）

(19)' あなた（の団体）について情報が書いてある市の書類を見たい人誰にでも見せてほしいと言ったときは、次に書いたようにその書類を見せると決めたので A 市情報公開条例第 xx 条で使う同じように使う同じ条例の第 xx 条第 x 項の規則を使って知らせます。（書）

(21) 通信販売にクーリング・オフ制度はありませんが、広告などに返品について分かりやすく表示されていない場合は、商品到着後 8 日間、送料消独者負担で返品が可能になりました。（原）

(21)' 郵便や宅配で物を買うときにクーリング・オフという規則はありませんが、その広告などに物を返す返し方が分かりやすく書いていないときは、その物が届いてから 8 日の間、送るお金を自分が払うことで返すことができるようになりました。（書）

庵 功雄(2013 印刷中)「公文書書き換えコーパスの統語論的分析—受身を中心に—」『人文・自然研究』7、一橋大学

● 基調講演2 NHK「NEWS WEB EASY」について

～「やさしい日本語」でニュースを書き換える研究と取組～

越智 慎司氏（NHK報道局ネット報道部 専任記者（制作））



越智 慎司氏

「やさしい日本語」の概要

記事 複雑で長い記事は情報を整理

文法 旧日本語能力試験の3級と4級の範囲

- ・文を短くする
- ・複合動詞は使わない（逃げ出す、盛り上がる）
- ・受け身、使役はできるだけ使わない
- 「れる、られる」は可能（尊敬・自発などと形が一致）
- ・難しい伝聞表現「～としています、～とみられています」などは書き換える

語彙 旧日本語能力試験の3級と4級、約1,600語程度

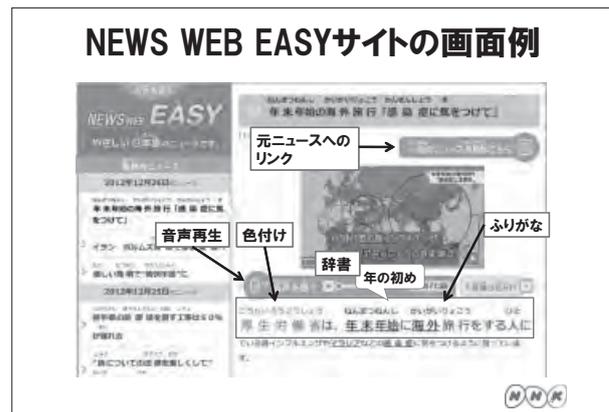
- ・頻出語、専門用語、固有名詞は許容、無理な書き換えはしない
- ・漢字にはふりがなを付与



3. 「やさしい日本語」の概要



1. NHK「NEWS WEB EASY」について 「やさしい日本語」でニュースを書き換える 研究と取組



4. NEWS WEB EASY サイトの画面例

研究・取組みの背景

- ・国内の外国人人口の増加（地域によって集中）
- ・外国人にもわかる「やさしい日本語」へのニーズ
→自治体中心に取り組み広がる

“わかりやすい” → “すべての人にわかりやすい”

平成24～26年度 NHK経営計画 4つの重点目標
③放送と通信の融合時代にふさわしい、さまざまな伝送路を利用した新たなサービスを充実させます

→ 日本に住んでいる外国人の方に向け、ニュース原稿を平易な日本語に変換する技術や、放送と通信の融合技術を活用した多言語などの字幕放送などの技術を開発



2. NHK経営計画にも、「ニュース原稿を平易な 日本語に変換する技術」を開発、と明記

2013/2/23 5

2. これまでの「やさしい日本語」研究と本研究

減災のための「やさしい日本語」（減災EJ）

A <原文>

けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、強い揺れに見舞われました。

B <言い換え文>

今日、朝、5時46分ごろ、兵庫、大阪、などで、とても大きい、強い地震がありました。地震の中心は、兵庫県の淡路島の近くです。地震の強さは、神戸市、洲本市で、震度が6でした。

5. ニュースの作成手順

EASY **支援システムの考え方**

「やさしい日本語」の基準はまだ確立していない

- ・作業による揺れを抑える
- ・作業の効率化を図りたい

↓

書き換え支援エディタ

- ・書き換えポイント、書き換えによる難易度の変化を表示

用例検索システム

- ・書き換え例を提示

(NNN)

6. 支援システムの考え方
(作業による揺れを抑え、作業の効率化を図る)

EASY **用例検索の使い道**

- ・元ニュースと書き換えを毎日ためています
- ・過去の書き換え例を見られます

書き換え例

1万円にする としています	➡	1万円にする 予定です
5000円まで としています	➡	5000円までと 決めています
加速させたい としています	➡	もっと早く進める ことにしています

「としています」を
どう書き換えようかな

(NNN)

9. 用例検索の使い道

書き換えエディタ 記事評価表示

原文 | 日教師書き換え | 記者校閲

難易度:5521 | 難易度:2201 | 難易度:1773

(NNN)

7. 書き換えエディタ
(難易度の数字を小さくしていく)

EASY **書き換えできない単語**

- ・特殊な狭い概念を持っている語

「接待」→ ニュースではほとんど「(不法な)見返りを期待してごちそうする」の意味。基本的な意味の「ごちそうする」で書き換えても伝わらない

「吹き抜け」「感染」「不審者」

- ・広い概念を持っている語

「福祉」「公共事業」「国際社会」「環境問題」

(NNN)

10. 書き換えできない単語
(特殊な狭い概念語、広い概念語)

用例検索システム

過去の記事の検索が可能

(NNN)

8. 用例検索システム
(過去の記事の検索が可能)

EASY

- ・専門用語、固有の表現

「補正予算案」「マグマ水蒸気爆発」「震度」「被災地」

- ・日本文化特有の語

「ひな人形」「歌舞伎」「唐草」「ひわだぶき」

(NNN)

11. 書き換えできない単語
(専門用語、固有の表現、日本文化特有の語)

EASY **書き換えが難しい単語**

- ・「お年寄り」
「お年寄り」→「おじいさん、おばあさん」と書き換えると冗長な印象に
- ・「影響」(文脈によって意味が変わる)
「地震の影響で建物が壊れた」→「地震で建物が壊れた」
「金融危機の影響で」→「景気が悪いため」
- ・「布団をしく」「布団を干す」
「布団をしく」→「布団を広げる」では、寝るための準備という意味が薄くなる
「布団を干す」→「布団を乾かす」では、濡れた布団を乾かす印象に

(N)(N)(K)

12. 書き換えが難しい単語

EASY **ニュースの慣用表現**

- ・「～としています」
- ・「～とみられています」
- ・「XがYしたものです」

書き換え例:
「警察は～としています」 → 「警察は～と言っています」
※ 主語がなければ書き換えるのは難しい

(N)(N)(K)

15. ニュースの慣用表現

EASY **文は短く、だが…**

・「AはBを誘拐し、監禁し、けがを負わせた疑いで逮捕されました。」

・「AはBを誘拐しました。また監禁しました。そしてけがを負わせた疑いで逮捕されました。」

・「AはBを誘拐した疑いで逮捕されました。また監禁した疑いで逮捕されました。そしてけがを負わせた疑いで逮捕されました。」

対策: ①文を短くしすぎない
②文を短く分けて、重要な文だけ残す

(N)(N)(K)

13. 文を短くするときの注意点

EASY **発言を扱った原稿**

発言を「やさしい日本語」で書き換えたニュアンスの変化が許されるか?

- ・ 発言の表現そのものが問題になっている
→ 書き換えてできない
- ・ 発言の内容が問題になっている
→ できるだけやさしく書き換える

(N)(N)(K)

16. 発言を扱った原稿の書き換えについて

EASY **受動態か能動態か**

原則: 能動態をできるだけ使って書き換える

書き換えられない場合

- ・ 「お金を盗まれる」「頭を殴られる」(被害者が主語)
- ・ 「およそ120件の応募の中から選ばれた日本の建築家グループの設計」(主語が明確でない)

前後の文の視点とずれることがないよう、関係が自然にわかるように文を並べ替えたり、情報を削除したりすることがある

(N)(N)(K)

14. できるだけ能動態を使って書き換える

EASY **文脈整理のしかた①**

<元記事> 1つの文にたくさんの情報が詰め込まれている

- ① 3日は、人気キャラクターのドラえもん誕生日からちょうど100年前にあたり、原作者の藤子・F・不二雄さんが晩年を過ごした神奈川県川崎市はドラえもんに特別に住民票を交付して祝いました。(「リード」と呼ばれる部分)
- ② 平成8年に亡くなった藤子・F・不二雄さんの人気漫画「ドラえもん」は2112年9月3日に誕生したとされ、3日はちょうど100年前にあたります。
- ③ 藤子さんが晩年を過ごした川崎市からドラえもんに特別住民票が交付されることになり、川崎市多摩区にある記念のミュージアムで、阿部孝夫市長からミュージアムの伊藤善章館長に、縦70センチ余り、横50センチ余りのドラえもんの絵柄が入った特別な住民票が手渡されました。

【ニュースの文章の特徴】
情報の羅列でなく、それらを組み合わせて1つのメッセージを伝えている (N)(N)(K)

17. 文脈整理のしかた①



文脈整理のしかた②

<分割結果>それぞれの文はわかりやすいが、関係や展開がよく見えない

- ① 2012年9月3日は、有名な漫画のキャラクターのドラえものの100年前の誕生日です。
- ② 神奈川県川崎市はドラえものに「特別住民票」を渡して祝いました。
- ③ 川崎市はドラえもんを描いた藤子・F・不二雄さんが晩年住んでいた所です。
- ④ ドラえもんは、平成8年(1996年)に亡くなった藤子・F・不二雄さんが描いた有名な漫画のキャラクターです。
- ⑤ ドラえもんの誕生日は、2112年9月3日になっています。
- ⑥ 2012年9月3日はドラえもんが生まれるちょうど100年前です。
- ⑦ 藤子さんは晩年、川崎市に住んでいました。
- ⑧ 川崎市多摩区にはドラえもんの美術館があります。
- ⑨ 川崎市はドラえもん「特別住民票」を渡して、100年前の誕生日を祝うことにしました。
- ⑩ 川崎市長は美術館の館長に、縦約70cm、横約50cmのドラえもんの絵が描いてある「特別住民票」を渡しました。



18. 文脈整理のしかた②



公開実験を通じて

- ・ 2012年夏に外国人と小中学生を対象に行ったニュースの理解度テストで、元記事に比べ理解度が10%程度アップ
- ・ 外国人、子ども(その親)、日本語教育の関係者、さらに知的障害や聴覚障害の関係者からも反響あり。「もっと数を増やして」「もっといろんな分野を」「まだわかりづらい」



21. 公開実験により、ニュースの理解度がアップ



文脈整理のしかた③

<最終結果>

情報を減らす、文の順序を変える、再び一つの文にするなどして、メッセージが明確になるようにする

- ① 有名な漫画のキャラクター、ドラえもんは、2112年9月3日に生まれたことになっているため、ここの9月3日は100年前の誕生日になります。
- ② ドラえもんを描いたのは、平成8年(1996年)に亡くなった藤子・F・不二雄さんです。
- ③ 藤子さんは晩年、神奈川県川崎市に住んでいて、川崎市には藤子さんの絵などを集めた記念館もあります。
- ④ このため、川崎市はドラえもんの100年前の誕生日を祝うことにしました。
- ⑤ 川崎市の市長が記念館の館長に、縦約70cm、横約50cmのドラえもんの絵が描いてある特別な住民票(=住民の名前や生まれた日などを記録する書類)を渡しました。



19. 文脈整理のしかた③



おわりに

- ・ 一つの目的のためにやさしくした日本語が、いろいろな目的に役に立つ
- ・ 「目で見て」「耳で聴いて」よりわかりやすい言葉と文でニュースを伝える



22.



作業の役割分担

原文

日本語教師など



3日は、人気キャラクターのドラえもんの誕生日からちょうど100年前にあたり、原作者の藤子・F・不二雄さんが晩年を過ごした神奈川県川崎市はドラえもん「特別住民票」を交付して祝いました。

単語や文法をやさしく
文を分割して短く

ニュースの専門家
記者など



2012年9月3日は、有名な漫画のキャラクターのドラえもんの100年前の誕生日です。神奈川県川崎市はドラえもん「特別住民票」を渡して祝いました。川崎市はドラえもんを描いた藤子・F・不二雄さんが晩年住んでいた所です。

内容を確認、要約、情報の並べ替え

有名な漫画のキャラクター、ドラえもんは、2112年9月3日に生まれたことになっているため、ここの9月3日は100年前の誕生日になります。



20. 作業の役割分担




NHK「NEWS WEB EASY」
<http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>



23.

● 事例報告 1 「わかる日本語」による情報提供
 ～外国人のための生活便利帳作成の取組～

薄場 郁子氏（荒川区区民生活部文化交流推進課都市交流係長）



薄場 郁子氏

2012年版 生活便利帳の紹介

（参考）荒川区の外国人住民について
 平成25年1月1日現在 15,313人
 全区民 206,457人 外国人比率 7.4%

国別	①中国	6,740人	年齢別	①20代	2,289人
	②韓国・朝鮮	6,271人		②30代	1,793人
	③フィリピン	510人		③40代	1,443人

～コンセプト補足～
 ○漢字圏出身の外国人区民が多いため漢字を多く使用した。
 ○若い世代に必要な情報を掲載した。

3. 荒川区の外国人住民について

- ・荒川区は人口に占める外国人比率が23区で3番目に高い

「わかる日本語」による情報提供

外国人のための生活便利帳作成の取組み

荒川区区民生活部
 文化交流推進課都市交流係
 薄場 郁子

1. 外国人のための生活便利帳作成の取組

2012年版 生活便利帳の紹介

便利帳の活用

○配布対象者

新規外国人登録者、荒川区転入者	戸籍住民課窓口	400部
荒川区国際交流協会日本語教室受講生		40部
東京都の国際交流協会及び国際交流担当課		約100部

○配布期間
 平成24年3月～5月まで 3ヵ月間
 平成24年7月9日 外国人登録法改正

4. 生活便利帳の活用（生活便利帳配布先）

2012年版 生活便利帳の紹介

コンセプト

日本に来て1年ぐらいの外国人が読んでわかる荒川区の生活便利帳を作成する。

2. 2012年版生活便利帳のコンセプト

- ・日本に来て1年ぐらいの外国人が分かる生活便利帳

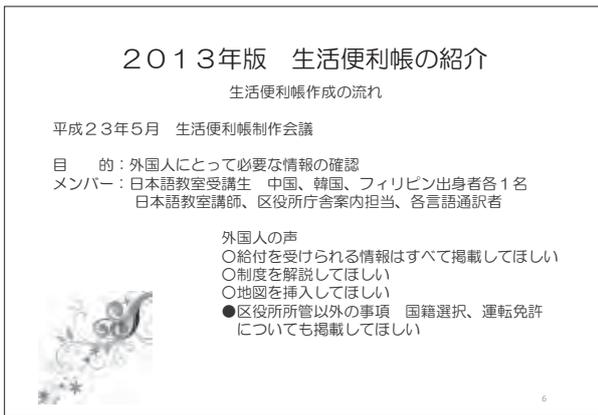
2013年版 生活便利帳の紹介

コンセプト

外国人にとって必要な情報を外国人が読んでわかる荒川区の生活便利帳を作成する。（3カ国版の作成）

5. 2013年版生活便利帳のコンセプト

- ・外国人にとって必要な情報を外国人がわかる生活便利帳（3カ国版の作成）



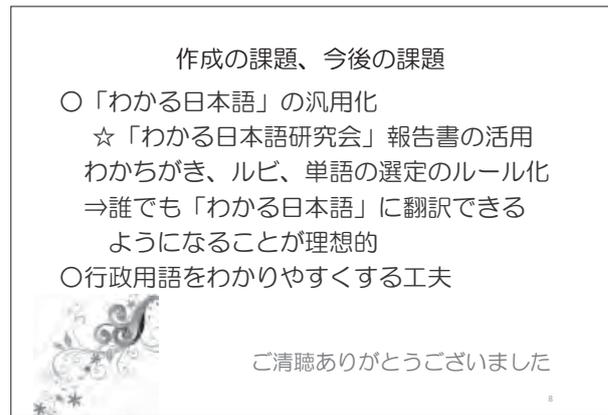
6. 生活便利帳作成の流れ

- 目的、メンバー
- 外国人の声の活用



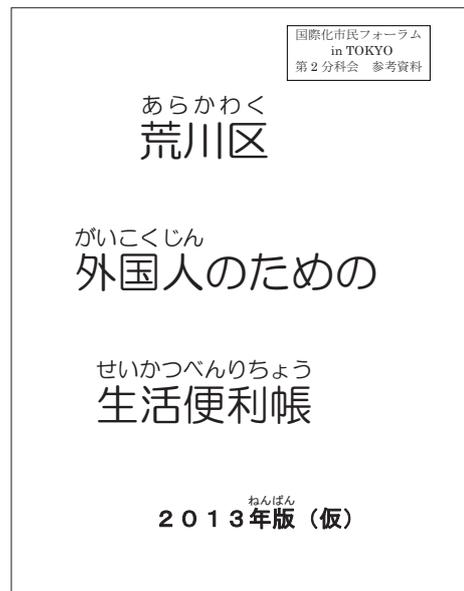
7. 生活便利帳作成の流れ

- 作成スケジュール



8. 作成の課題と今後の課題

「わかる日本語」の汎用化



A4サイズの冊子
約10ページにわたる。



● 事例報告 2 やさしい日本語でいってみよう！

倉田 広氏（練馬区区民生活事業本部地域文化部地域振興課事業推進係長）



倉田 広氏

ねりまのひとびと

- ▶ 人口（24年12月現在）
 - 717,570人（第2位）
- ▶ 外国籍住民
 - 12,739人（第13位）
- ▶ 外国籍住民の比率
 - 1.78%（第22位）



3. 練馬区の特徴

やさしい日本語で いってみよう！

練馬区地域文化部地域振興課事業推進係
倉田 広

1.

外国から来られた方々へ

- ▶ 外国語相談コーナー
 - 月～金 午後1時～5時
 - 英語・中国語・ハングル（金のみ）
- ▶ 通訳ボランティア
 - 登録者：34言語387名（23年度末現在）
 - 実施回数：68回
- ▶ このほか、日本語講座などを実施

4. 外国から練馬区へ来られた方々へのサービス

ねりまをこ紹介



- ▶ ◯みどりが多い！
- ▶ ◯アニメがさかん！



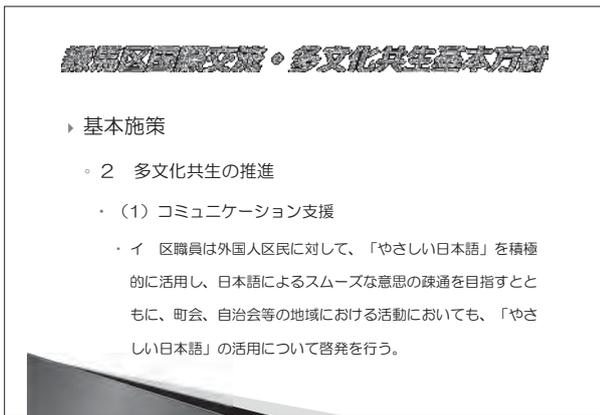
2. 練馬区について

- 人口、外国籍住民数、外国籍住民比率

練馬区国際交流・多文化共生基本方針

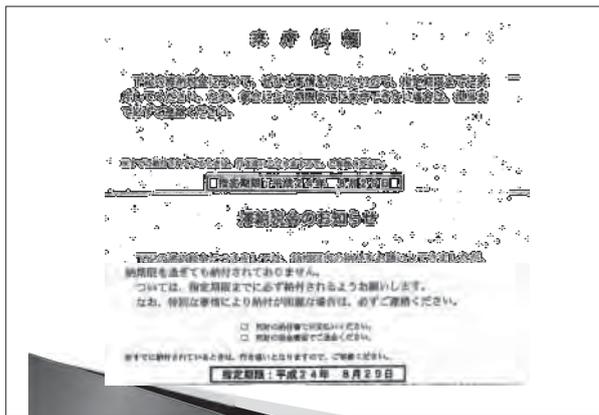
- ▶ 平成21年度に実施した「外国籍住民意識意向調査」などを踏まえ、平成24年3月策定
- ▶ 国際交流・多文化共生の基本的な考え方や、基本施策を規定

5. 平成24年3月に、「練馬区国際交流・多文化共生基本方針」を策定

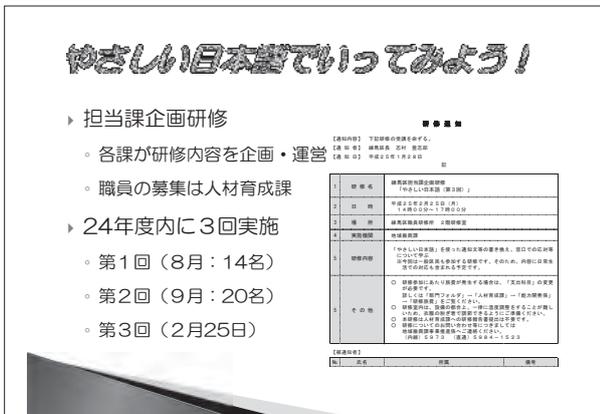


6. 基本施策について(多文化共生の推進)

- ▶ 基本施策
 - 2 多文化共生の推進
 - ・ (1) コミュニケーション支援
 - ・ イ 区職員は外国人区民に対して、「やさしい日本語」を積極的に活用し、日本語によるスムーズな意思の疎通を目指すとともに、町会、自治会等の地域における活動においても、「やさしい日本語」の活用について啓発を行う。



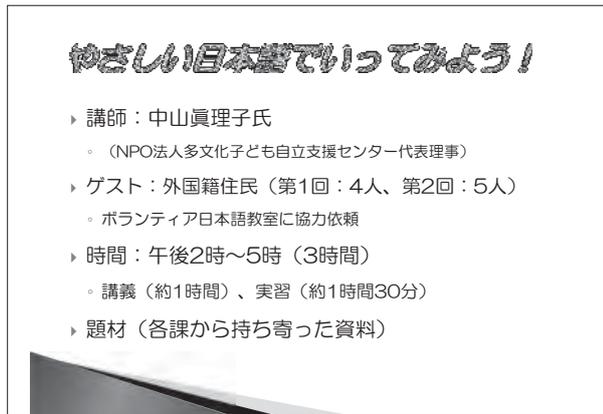
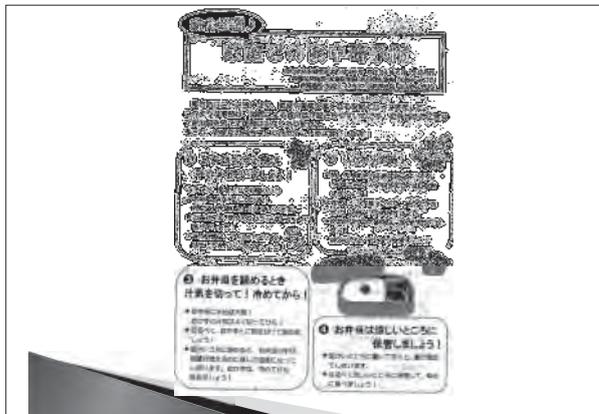
9. 職員研修において、税金を滞納した方への通知の内容を、日本語がわからない方に説明する場面を想定して、実際に外国人の方に来てもらい、職員が外国人に説明した。各課の職員は一生懸命説明していたが、なかなか外国人の方には理解されなかった。しかし、講師の中山先生が、「あなたは悪い人です。」と言ってから説明したところ、ようやく理解された。



7. 24年度の3回の研修の講師は中山真理子氏

- ▶ 担当課企画研修
 - 各課が研修内容を企画・運営
 - 職員の募集は人材育成課
- ▶ 24年度内に3回実施
 - 第1回(8月:14名)
 - 第2回(9月:20名)
 - 第3回(2月25日)

1	研修名	新潟県国際交流センター「やさしい日本語」
2	日 時	申込より先着順(要申込) 1. 8月10日(金) 17時30分~19時30分
3	場 所	新潟県国際交流センター 研修室
4	参加費	研修室費
5	研修内容	「やさしい日本語」を身につけた外国人の書き換え、口頭での応答について ※参加費の一部は実費負担となります。そのため、内容に依り、参加費の異なる場合があります。
6	その他	○ 研修室に出入りする際は必ず「やさしい日本語」のポスターを掲示してください。 ○ 研修室には、多言語対応の「やさしい日本語」ポスターを掲示していただくことが、外国人の方とのコミュニケーションをスムーズにすることが期待されています。 ○ 研修室には、外国人の方とのコミュニケーションをスムーズにするための「やさしい日本語」ポスターを掲示していただくことが期待されています。 ○ 研修室には、外国人の方とのコミュニケーションをスムーズにするための「やさしい日本語」ポスターを掲示していただくことが期待されています。

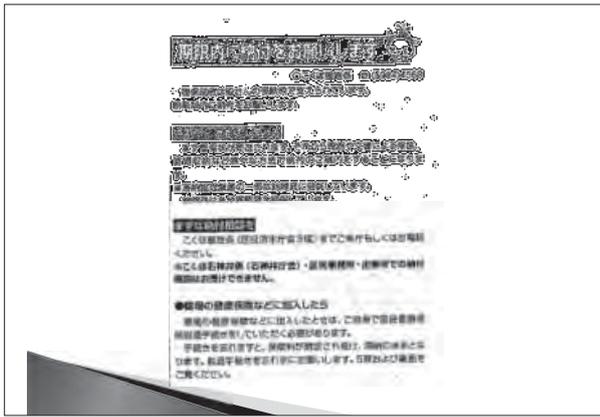


8. 担当課企画研修を実施

- ▶ 講師：中山真理子氏
 - (NPO法人多文化子ども自立支援センター代表理事)
- ▶ ゲスト：外国籍住民(第1回:4人、第2回:5人)
 - ボランティア日本語教室に協力依頼
- ▶ 時間：午後2時~5時(3時間)
 - 講義(約1時間)、実習(約1時間30分)
- ▶ 題材(各課から持ち寄った資料)

10. 食中毒予防の研修

- 食中毒で「お腹が痛い」ということを表すときには、講師の先生はジェスチャーをしておられた。



11. 国保料納付のお願いの研修



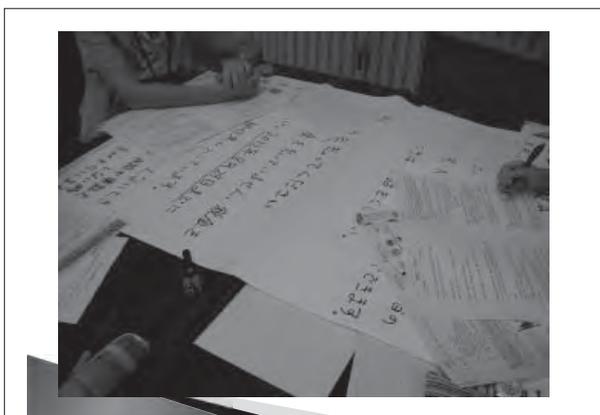
14. 研修の様子



12. 研修の様子



15. 研修の様子



13. 研修の様子

やさしい日本語でいってみよう!

アンケート結果【()は第2回】

理解できた	9名(10名)
ほとんど理解できた	4名(9名)
あまり理解できなかった	1名(0名)
まったく理解できなかった	0名(0名)
役に立つ	10名(15名)
少し役に立つ	4名(4名)
あまり役に立たない	0名(1名)
まったく役に立たない	0名(0名)

16. アンケート結果

・かなりの方が、「役に立つ」と回答

やさしい日本語でいってみよう！

- ▶ <自由意見>
- ▶ 相手（外国人）の立場になっての言葉づかい、大変勉強になりました。役所の書類は、ほとんど役所側の立場で使っていることを再認識。これでは外国人や高齢者には、分からないと思いました。
- ▶ 実際に外国人の方に区役所の案内を説明し、伝えるためのやさしい日本語の難しさをつくつく感じました。
- ▶ 一生懸命話を聞いてくださる方相手でも、「伝える」ことは難しかった。そのことを実感できて良かった。

17. アンケート結果（自由意見）

ありがとうねり！



18.

● パネルディスカッション

① 一連の報告を聞いてのご意見や、補足説明は？

庵：

やさしい日本語に書き換えるときには、いろいろな考え方があり、とにかく表現を切り落としてでもやさしくしよう、という方もいれば、一方で、日本人が読んで違和感がない程度に変えるべき、という方や、文を長くしようとする方、短くしようとする方など、様々である。我々がやろうとしていることは、そういったバリエーションをできるだけ減らそう、という試みである。しかし、それは規格化をするために必要なことであって、一般の書き換えにおいては、どうしたらやさしく伝えられるか、と考えることが必要。そして、書き換え結果よりも、相手が何を伝えようとしているのかをどうやって理解し、どう相手に伝えるか、というプロセスが重要。例えば、今はなかなかレポートが書けない学生が多く、その書き方について大学で指導をする、ということが行われているが、これは、本来高校までに行えるようにしておくべきことである。レポートは、事情がわかっていない相手にどうやって説明するか、ということに配慮しなければならない。こういう技術を身につけるためには、事情がわかっている相手に説明する文章をいくら書いても意味がない。

これができないということは、つまり、相手の立場に立って文章を書く、という訓練を受けていないということである。やさしい日本語で表現する、と

いうことは、やさしい日本語、わかりやすい日本語、構成法で表現しないと、理解されない相手に説明するということである。文章を書く時だけでなく、話すときも、これを意識する必要がある。こういった訓練は、本来、国語教育の中でやるべきことであり、幼少時から積み上げていくべきことである。やさしい日本語は、もともと外国籍の大人を対象としていたが、以上の背景で、現在は日本人の子ども、大人をはじめ、日本社会のほとんど全ての人にやさしい日本語が必要である。

越智：

庵先生の話聞いて、報道の現場と同じだと感じた。結局、報道に求められていることは、全く何も知らない人にどう伝えるか、わからない人にどう伝えるか、ということである。やさしい日本語は、ニュースをもっとわかりやすくする、という機能も果たしているのではないか。相手の立場に立って、どう伝えていくか、ということもこれからも意識していきたい。

薄場：

やさしい日本語による外国人のための生活便利帳を作ったときは、「わかる日本語」が何なのか、ということが理解されておらず、各部署にやさしい日本語にした原稿を持っていくと、「これでは私たちが

ピンとこない。わからない」と言われることが多かった。しかし、1年目よりも2年目の方が、わかる日本語が理解されていった。この生活便利帳を更新していくにあたり、外国人の立場に立って考えることを常に意識していきたい。

倉田：

やさしい日本語についての認識がまだ広がっておらず、その重要性についても理解は進んでいない。やさしい日本語研修には、なかなか受講生が集まらない状況なので、やさしい日本語の必要性が特に高いと思われる部署を中心に働きかけ、研修受講生を増やしていきたい。

② やさしい日本語を教える人材をどう育成していくかということについては、どう考えるか。

庵：

やさしい日本語に書き換えることを教えるには、かなりの専門知識を要するので、簡単には人材を育成することはできない。むしろ、日本人の意識を変えることの方が重要。例えば、結論を言わない言いさし表現(「～ので。」「～だから。」といった省略表現)、をやめるようにすることが必要。英語や、

中国語、韓国語ではそういった表現はない。また、不必要に主語を省略することをやめて、「私」や「あなた」などの言葉を明示すべき。少なくとも、外国人や子どもと話すときに、そういったことを意識するべき。人材育成以前に、こういうことを心がけるだけで、大きく変わると思う。

③ NHKさんでは、何人くらいの方がNEWS WEB EASYに関わっているか。また、わかる日本語に関する人材育成についてはどう考えるか。

越智：

記者や日本語教師を含めて、実質10名。わかる日本語に書き換えをできる人を増やす必要はあるが、だからといって、そのための人材を育成するために何かをしなければ、ということはないと思う。さきほど庵先生がおっしゃったように、主語を省略

したり言いさしをしたりすると外国人には分かりにくい、といった指摘を、私たちも日本語教師から受ける。通常のニュース原稿を書く段階で分かりにくい表現を減らし、日本語として違和感を持たずに聞けて理解できる文章にしていきたい。こうした意識を記者も持つよう、働きかけていきたい。

④ わかる日本語に書き換えるときは、どのくらいの日本語レベルの人を想定していますか。

NHKさんでは、旧日本語検定3級から4級程度ということでした。

庵：

旧日本語検定3級から4級程度です。

- テーマ 行ってみよう防災訓練、進めよう地域の取組
- ねらい 3.11を経験し、次なる震災に備えておくことは急務になっています。いざという時に自分や家族などの身の安全を図るため、どのような備えをし行動をとったらよいのか？自治体、地域、学校などで取り組まれている防災訓練に楽しみながら参加するにはどうしたらよいか、防災のための知識や経験を得るための地域の取組を考えます。
- コーディネーター 土井 佳彦 ((特活)多文化共生リソースセンター東海 代表理事)
- パネリスト 古川 豊光 (八王子国際協会)
デズモンドT・ベル (小平市在住)
スッチー・マッシモ (八王子市在住)
- ワークショップ 堀之内 陽子 ((特活)はままつ子育てネットワーク事務局)
- 参加者数 19名

■分科会の構成■

- 趣旨説明
- 防災に対する地域(国)の取組
- 質疑応答
- ワークショップ

● 趣旨説明 (コーディネーター)

土井 佳彦氏 ((特活)多文化共生リソースセンター東海 代表理事)

東日本大震災からまもなく2年が経とうとしている。ここで、もう1度記憶を新たにするとともに、過去の歴史として残すのではなく、そこから多くのことを学び、次に生かしていく必要がある。災害や防災ということに対して様々な視点からの取組がのぞまれるが、本日は特に地域の取組に焦点を当てたい。防災に対する取組は、自助、共助、公助という3つに分けられるが、今回はその中でも、共助、私たちの知識やこれまでの経験をどのように共有すれば、より災害に対する対応力が高まっていくのかということを考えていきたい。



土井 佳彦氏

● 防災に対する地域（国）の取組

① 八王子国際協会の取組 古川豊光氏（八王子国際協会）

■災害ヘルプカード

八王子国際協会では、東日本大震災と2011年1月の第3期外国人市民会議の提言を踏まえて、「防災・災害対応プロジェクト委員会」を立ち上げ、八王子地域で大災害が発生した場合の外国人市民への支援体制について検討を重ねてきた。その結果、多言語での「災害ヘルプカード」と「防災マップ」を制作、配布した。

災害ヘルプカードは、予め自分の名前、国籍、現住所、血液型、電話番号などを書きこんでおき、災害時に役立てるとともに、災害時の注意事項や、避難の方法、情報の取り入れ方などをコンパクトにまとめた機能的・機動的な内容となっている。

防災マップは、災害ヘルプカードとセットになっており、災害時の避難場所となる17の市民センターが記載されている。防災マップで近くの避難場所を知っておくことは、大地震の経験のない外国人市民にとって心強いことである。これらは、手帳や財布等に常時携帯できるようなサイズで、日・英・中・韓・スペイン語の5か国語で表示されている。



古川 豊光氏



災害ヘルプカード（10.5 cm× 7.5 cm）



広げた裏面 日、英、中、韓、スペイン語の5か国語で表示



防災マップ（上記とサイズ同じ）
災害ヘルプカードと2枚1組



広げた裏面

■災害発生時の行動概要図と防災訓練

八王子国際協会は、上記の災害ヘルプカード、防災マップの作成とともに、支援スキームとして「災害時外国人対応要領運営要領」を作成した。(資料1参照)

具体的な内容は、八王子地域に大地震などの災害が発生した場合、八王子国際協会内に外国人支援センターを立ち上げ、①外国人が必要とする情報の収集と集約した情報を災害対策本部、避難場所に提供する、②語学ボランティアを市民センターに派遣する、③被災相談窓口(外国人相談)を支援する、④外国人支援団体と情報交換を行うことである。災害時は、電話が使用できなくなる恐れがあるため、防災無線で情報を交換することになっている。(資料2参照)

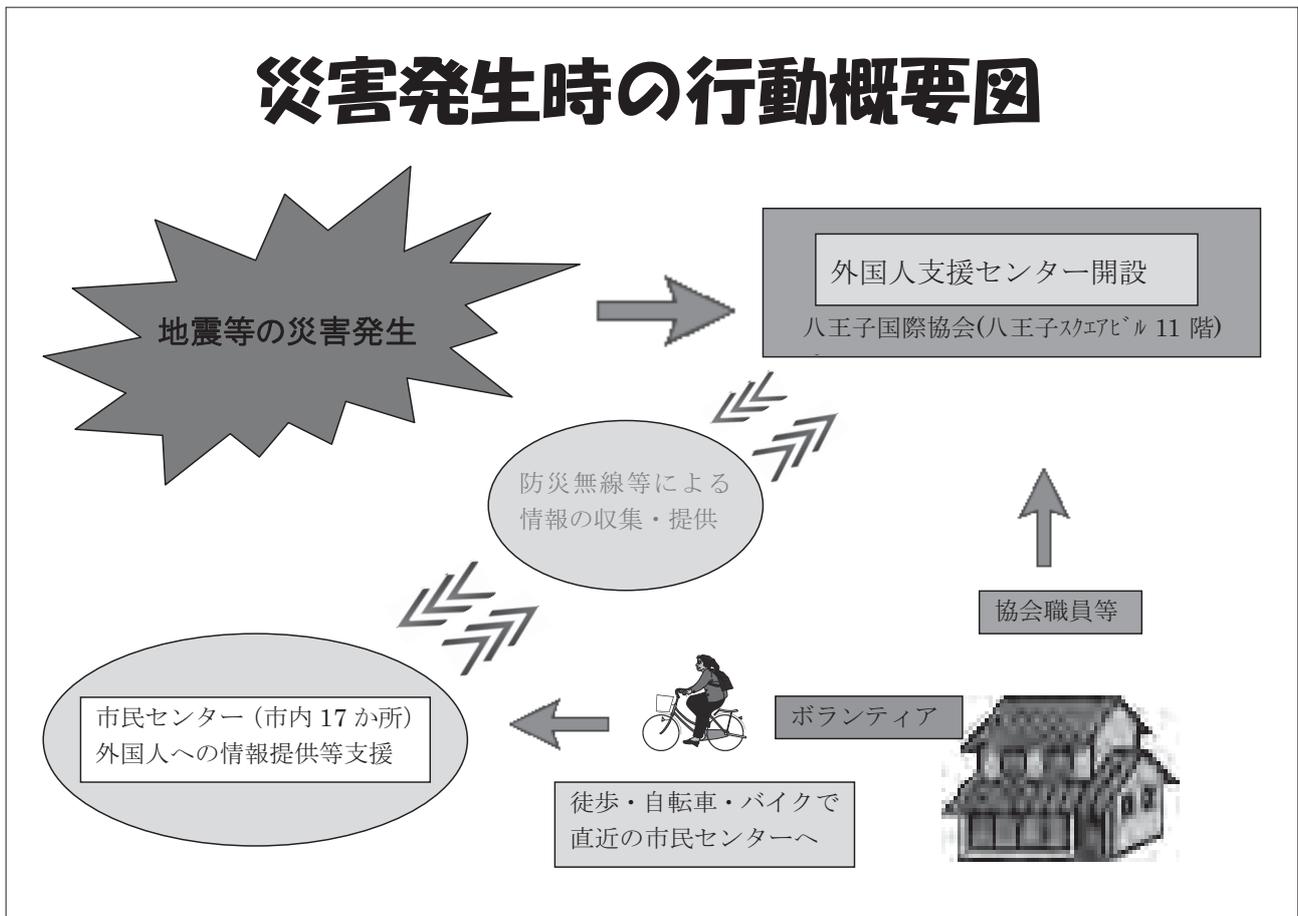
2013年2月12日に、支援スキームに従い、3つの市民センターで外国人市民のための防災訓練

を行った。

次のような想定である。八王子市域に震度6弱の大地震が発生し、避難場所に指定されている各市民センターに、近隣に居住する外国人市民が避難してきた。近くに住む語学ボランティアが、通訳支援のために市民センターへ駆けつけた。

上の想定のもと、防災訓練シナリオに沿って、実際に外国人市民と語学ボランティア、外国人支援センターの職員が、どう助けを求めるのか、どのように語学ボランティアに要請するのかなど、災害時にスムーズに対処できるようにやりとりを練習した。また、語学ボランティアが被災者から状況を聞き取ったり、避難所を説明したりする訓練も行った。さらに防災倉庫を見学し、どういった食糧が備えられているのか、どのくらいあるのかなど情報提供も行った。(資料3参照)

災害発生時の行動概要図



災害時の外国人市民のための「災害ヘルプカード」、「防災マップ」の配布と支援スキームについて

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東日本地域に未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命が奪われました。八王子国際協会では、このような状況と2011年1月の第3期外国人市民会議の提言を踏まえて、同年8月に協会内に「防災・災害対応プロジェクト委員会」を立ち上げ、八王子地域で大災害（大地震、洪水など）が発生した場合の外国人市民への支援体制について検討を重ねました。

その結果、言葉が十分でないため災害弱者となる恐れがある外国人市民のために多言語での「災害ヘルプカード」、「防災マップ」を制作・配布するとともに、支援スキームとして「災害時外国人対応要領運営要領」を作成いたしました。

1. 「災害ヘルプカード」

「災害ヘルプカード」は、予め自分の名前、国籍、現住所、血液型、自宅、大使館の住所、電話番号を書き込んでおき、災害時に役立てるとともに、災害時の避難の方法や情報の取り方などをコンパクトにまとめた機能的・機動的な内容となっています。カードは八王子市に居住する外国人市民（2012年12月現在、約9,000名）の方々が、手帳、財布、バック等に常時携帯できるように、サイズは、10.5 cm×7.5 cmで、日、英、中、韓、スペイン語の5か国語で表示されています。

2. 「防災マップ」

大災害時に市民センターが避難場所になります。市民センターのマップを記載した防災マップで近くの避難場所を知っておくことは、大地震の経験のない外国人市民にとって安心することができます。上記のサイズで、災害ヘルプカードとの2枚1組となっております。

3. 「災害時外国人対応要領運営要領」

当該支援の要領の内容は、八王子地域に大地震などの災害が発生した場合、すみやかに八王子国際協会内に「外国人支援センター」を立ち上げ、①外国人が必要とする情報の収集と集約した情報を災害対策本部、避難場所に提供、②語学ボランティアの市民センターの派遣、③被災相談窓口(外国人相談)への支援、④外国人支援団体との情報交換を行います。大災害時には電話による通信ができなくなる恐れがあるため防災本部や避難場所となる各市民センターと既に設置されている防災無線で通信を行います。

17の市民センターに、近くに居住する協会の語学ボランティア（現在約150名が登録）が通訳などの支援に駆けつけることになっております。

添付資料：「災害ヘルプカード」
「防災マップ」

問い合わせ先：八王子国際協会

担当：古川、齋藤

住所：八王子市旭町9-1 八王子スクエアビル11階

電話&FAX：042-642-7091

Email：koko-8@nifty.com

資料2

八王子国際協会災害時外国人対応要領

第1条（目的）

本要領は、八王子市域で震度6弱以上の地震が発生した場合又はその他の災害により被害が発生した場合の、外国人支援体制に関する八王子国際協会（以下「協会」という。）の緊急対応について規定する。

第2条（災害規模）

災害の状況により、次のとおり定義する。

フェーズ1：大規模地震が発生し、八王子市域が壊滅的な状況にある。

フェーズ2：地震発生後、八王子市域が壊滅的な状況から、交通、通信手段等が復旧し、連絡が可能な状況又はその他の災害により局地的に災害が発生し、通信手段等が可能な状況にある。

フェーズ3：八王子市域のインフラ等が復旧した状況にある。

第3条（外国人支援センターの設置）

第1条（目的）に定める災害が発生した場合は、速やかに協会内に「外国人支援センター」（以下「支援センター」という。）を設置し、必要な支援対応を開始する。

設置場所：八王子市旭町9-1 八王子スクエアビル11階

TEL&FAX：042-642-7091

e-mail：koko-8@nifty.com

第4条（支援センターの構成）

支援センターは、以下の支援センター員で構成し、次の職務を担う。

センター長（協会理事長）：総括責任者、支援センターの設置

副センター長（協会事務局長）：センター長補佐

連絡・情報班：八王子市の災害対策本部との連絡・調整（市職員）、災害ボランティア対応

相談班：災害発生後の外国人相談窓口

巡回班：市民センター等への巡回

情報提供班：SNS（社会交流サイト）及びホームページ等による情報の提供

災害時語学ボランティア：支援センター、市民センター等で外国人の支援（通訳・翻訳等）、SNS、ホームページなどの運用

第5条（支援センター員の参集）

支援センター員は、第1条（目的）に定める災害が発生した場合は、バイク、自転車、徒歩等により、自主的に協会に参集する。ただし、交通機関の混乱・不通等により参集が不可能な場合は自宅待機とし、センター長の指示により行動する。

第6条（災害時語学ボランティア）

災害ボランティアは、地震又はその他の災害が発生した場合に、次のような対応を行う。

在宅時：協会があらかじめ指定した市民センターへ駆けつける。

外出時：自主的な判断により、支援センター又は直近の市民センターへ駆けつける。

第7条（地域防災無線の設置）

支援センターは、電話、携帯電話等が不通の場合、協会内に設置した地域防災無線により、市の災害対策本部及び市民センターとの連絡を行なう。

第8条（備蓄品の常備）

協会は、緊急時に備えて、支援センター員用として、次の備品を常時備えておく。

- (1) 非常食及び飲料水
- (2) 防災ヘルメット
- (3) 生活用品（毛布、懐中電灯など）
- (4) 医薬品
- (5) その他

第9条（支援センターのスキーム）

支援センターは被害の規模等により、以下のように対応する。

	フェーズ1 [壊滅的態状況]	フェーズ2 [連絡可能時]	フェーズ3 [復興期]
センター長	●	→	→
副センター長	●	→	→
連絡情報班	●	→	→
相談班		●	→
巡回班			●
情報提供班	●	→	→
災害時語学ボラン ティア	●	→	→

第10条（本要領の施行日）

本要領の施行日は、平成24年8月28日とする。

資料3

【英語版】

市民センター防災訓練シナリオ

場 所：南大沢市民センター、由木中央市民センター、由木東市民センター

想 定：2月12日（火）、12時頃、八王子市域に震度6弱の大地震が発生し、避難場所に指定されている各市民センターに、近隣に居住する外国人A（米国人）、B（英国人）が避難してきた。近くに住む語学ボランティアA、Bは、通訳支援のために市民センターへ駆けつけた。外国人支援センターとの交信は防災無線で行う。

シナリオ1

外国人A：近くに住んでいる〇〇といます。国籍は米国です。地震で住んでいたアパートが倒壊し、ここに避難してきました。（英語）

職員：語学ボランティアのAさん、通訳をお願いします。ゼッケンをつけてください。あとは外国人と直接対応してください。（日本語）

通訳A：了解しました。（日本語） 詳しい状況を教えてください。（英語）

外国人A：アパートから脱出するとき、転んで怪我をしました。友人が同じアパートに住んでいます。行方が分からず心配です。また、食料や飲料水があったら分けてください。（英語）

通訳A： 了解しました。まず怪我の応急措置をしましょう。食料、飲料水は備蓄されていますので、数日間はここでしのげます。友人のことは、消防署などの関係機関と相談します。（英語）

通訳A： 外国人支援センター、応答願います。（日本語）

外国人支援センター：こちら外国人支援センターのXです。状況を報告願います。（日本語）

通訳A：（状況を日本語で報告する）

シナリオ2

外国人B：近くに住んでいる〇〇です。国籍は英国です。家族2人（妻、子ども3歳）と避難してきました。食料、飲料水、宿泊場所はあるでしょうか。友人と大使館に連絡したいので、お願いします。（英語）

通訳B：了解しました。食料、飲料水はあります。数日間の宿泊は、ここで可能ですので心配しないでください。友人、大使館への連絡は、通信回線（電話、携帯）が混乱していますので、通じるかどうかはわかりませんが、やってみます。（英語）

通訳B：外国人支援センター、応答願います。（日本語）

外国人支援センター：こちら外国人支援センターのYです。状況を報告願います。（日本語）

通訳B：（状況を日本語で報告する）

Tuesday February 12, 2013

Shimin Center Disaster Prevention Drill Scenario

Place: Minami Osawa Shimin Center, Yugi Chuo Shimin Center & Yugi Higashi Shimin Center

Assumption: Big earthquake occurred in Hachioji area around 12 : 00 on Feb.12(Tues.) and registered intensity of under 6. Foreigner living in the neighborhood were evacuated to a Shimin Center nominated as a shelter. Language volunteer A (English) and B (English) living in the neighborhood rushed to a Shimin Center for supporting interpretation. Communication with Foreigner Support Center will be done by radio.

Line of communication 1

Foreigner A: My name is ○○ living in the neighborhood. My nationality is USA. As the apartment house where I live was collapsed by earthquake, I was evacuated here. (English)

Staff: Language volunteer B, please be an interpreter. Please take your number. And please take care of a foreigner directly. (Japanese)

Interpreter A: I understand. (Japanese)

Please tell me full details of your situation. (English)

Foreigner A: I fell down and was injured when I got out of the apartment house. While my friend lives in the same apartment house, I worry about him as I do not know where he is now. And please share me any foods and water if available. (English)

Interpreter A: I understand. First of all shall we take care of first aid to your injury. You can stay here a few days because foods and drinking water are kept here. We will consult with related organizations like fire station regarding your friend. (English)

Interpreter A: Hello Foreign Support Center, please answer. (Japanese)

Foreign Support Center: This is X from Foreign Support Center. Please report your situation. (Japanese)

Interpreter A: (explain the situation) (Japanese)

Line of Communication2

Foreigner B: My name is ○○ living in the neighborhood. My nationality is UK. I was escaped together with 2 members (wife and 3 years old child) of my family. Are foods, drinking water, staying accommodation available here ? I would like to communicate with UK Embassy and my friend. Please arrange it.

Interpreter B: I understand. Foods and drinking water are available. Please do not worry about accommodation because you can stay here a few days. I will try to arrange communication with UK Embassy and your friend although I wonder it is possible or not because communication lines (telephone and hand phone) are so busy.

Interpreter B: Hello Foreign Support Center, please answer. (Japanese)

Foreign Support Center: This is Y from Foreign Support Center. Please report your situation.

Interpreter B: (report the situation) (Japanese)

② イギリスの取組から学ぶ ～イギリスの取組の紹介～

デズモンドT・ベル氏（小平市在住）

■イギリスの災害 ～洪水～

イギリスは地震は少ないが、比較的土壌が低いため洪水が多く、国民にとって、「水」が心配事の1つである。実際に2012年11月から12月にかけて大雨が降り、かなりの地域が浸水した。100年以上前には、年間の溺死の死亡者は5000人程度で、現在の交通事故の死亡者が年間2000人程度なので、比較してみても多いことがわかる。このような背景のもと、100年ほど前から水上の救命、訓練の必要性が叫ばれ、洪水に対する備えが始まった。

■防災のポイント

水上の救命のポイントは以下の三角形の図の通りである。



ベル氏

まず、一番下の段にあるのは経験や訓練等で、これを土台にして、その上に協力・協議がある。やり方の異なる様々な団体があるため、お互いに協力していくことが必要である。一番上は法制・法制執務で、法律は、下の2つの段階、市民が動きやすいように作られるべきものである。こういった考え方が大切である。

一番下にある「訓練」においては、イギリスには3つの代表的な団体がある。The Royal Life Saving Society (RLSS)、Amateur Swimming Association (asa)、St. John Ambulanceである。RLSSは、水上の救命を教育、訓練する団体、asaは、競技水泳を教える団体である。そしてSt. John Ambulanceは、初めて病院を作ったという歴史のある団体で、国際救命救急ボランティア組織である。災害や事故、急病時の応急措置などの救急救命活動や、応急措置のできるトレーナーの育成など様々な活動を行っている。救急車を呼んでから到着までに10～15分程度かかることもあり、その間に命が失われることもある。応急措置のできるボランティアが備えられていれば、そういった場合にも対処でき、救われる命が多くなる。この制度ではイギリスで2001年に取り入れて、「Community First Responder」(CFR)という最高級応急措置訓練を受けた地区ボランティアが救急車と同時派遣され、多くの場合現場に先に到着し、応急措置を救急車到着まで続けます。

3つの団体の共通点は、若いうちに教育が始められることである。若いうちにリーダーシップが育つことは防災を考える上で、大切なポイントである。

続いて協力・協議である。イギリスにおいては、水上の安全を守る様々な団体が集まったNational Water Safety Forumの中で協力・協議が行われているが、日本ではどうだろうか。小平市には、防災関連の団体が52団体あるが、横のつながりはない。2013年1月に小平市では、災害が起きた時、外国人

を支援する仕組みを作ろうと、市と国際交流協会の間で協定が結ばれたが、今後の課題は、協会内の多くの団体の横のつながりを作ることである。情報交換をどのように行うか、物資をどのように渡すかなどを考えていくことが非常に重要である。

最後に、法制・法制執務である。イギリスでは、ROSPAとHSEという団体がある。ROSPAは民間団体であり、民間団体の意見をまとめて政府に法律作成の提案をする。HSEは、職場の安全を考える政府団体である。法律はファシリテーターとして、団体の意見を受け入れ、団体が活動をしやすいように作られることが大切である。

■共同・協力・共通目標 ～防災のキーワード～

- Learn to… (swim) キャッチフレーズとして使われる。すべての団体が同じ水準の水泳を提供する。1つのキャッチフレーズのもと、同じイメージを持つことができる。
- Save a… 人を助ける。
- Be prepared 想定外を予想する。
- Get involved 関わる。関係を持つ。
- Don't just make a difference, be the difference
 あなたの力がすべての力になる。

最も重要なキーワード：参加して！あなたの為だから！

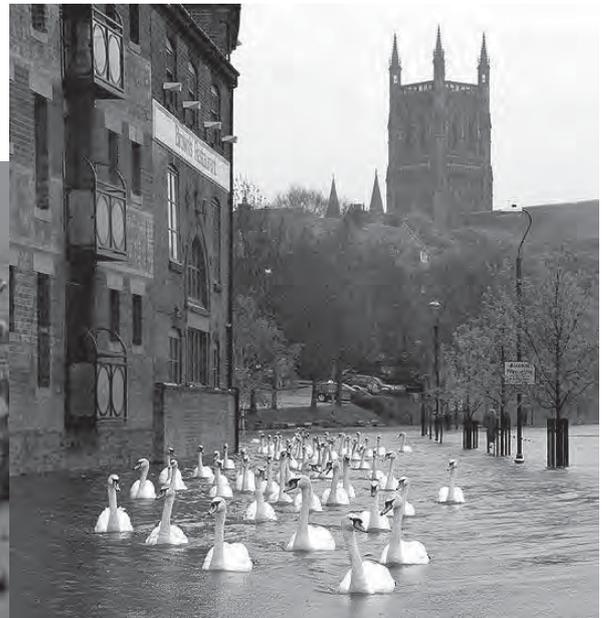


UK Flooding 2012

Number of Flood Warnings in Force by Region

06:55 on 28 Nov 2012. This information is updated every 15 minutes.
Please refresh the page to make sure you see the latest warnings

Status	Anglian	Midlands	Northeast	Northwest	Southeast	Southwest	Wales	Totals
 Severe Flood Warning Severe flooding. Danger to life.	0	0	0	0	0	0	2	2
 Flood Warning Flooding is expected. Immediate action required	24	70	39	1	22	16	3	175
 Flood Alert Flooding is possible. Be prepared.	32	44	26	4	42	22	13	183
Warning no longer in force Flood warnings and flood alerts that have been removed in the last 24 hours	4	32	27	11	22	56	13	165



検索「UK Floods 2012」(2012年11月25日—12月25日頃)

(Water) Safety 安全・安否

Public education 社会教育



創立 1891 年 www.lifesavers.org.uk



創立 1869 年

www.swimming.org/asa

Learn-to-(Swim)

(Swim) for Life

Legislation 法制・立法・法制執務



(1916)

www.rospa.com



(1833)

<http://www.hse.gov.uk/>

Collaboration 協力・協議



www.nationalwatersafety.org.uk

参加して！ あなたの為だから！

多摩

立川支局
 〒190-0012
 立川市曙町2-38-5
 立川ビルヂネスセンタービル3階
 ☎ 042-524-5104
 fax 042-524-5106
 mail tachikawa@asahi.com

町田 ☎ 042-723-3251
 八王子 ☎ 042-646-8511
 青梅 ☎ 0428-24-3824

東京総局
 〒100-0011
 千代田区内幸町2-2-1
 日本ビルヂャセンタービル3階
 ☎ 03-3508-0390

購読・配達のご用は
 ☎ 0120-33-0843
 (7:00~21:00)

広告のご用は
 ☎ 03-3547-5550

折り込みのご用は
 ☎ 042-540-1971

語学ボランティア 災害時派遣へ協定

あす小平市と国際交流協

災害が起きた時、言葉がわからずに戸惑う外国人らを支援する仕組みをつくること、小平市が31日、市国際交流協会と協定を結ぶ。「語学ボランティア」が避難所を回り、日本語がわからない人に必要な情報を教えたり、不安を訴える人の相談に乗ったりする。東日本大震災の発生時、被災地では日本に来て日が浅い人たちが、言葉や文化の違いから避難所に居づらくなったり、正確な情報を得られずに食糧支援を受け

られなかったりすることがあったという。協会によると、小平でも「計画停電の時間がわからない」「放射能汚染はどこまで広がっているの」と外国人からの問い合わせが相次いだ。菊池哲矢事務局長は「自国語で読めるネット情報に振り回される人が多かったようだ」と話す。協定では、こうした不安を少しでも軽減しようと、災害が起きた時に、市が協会に語学ボランティアの派

遣を要請。語学ボランティアは協会が養成し、避難所などを回って通訳をしたり、相談相手になったりする仕組みをつくる。語学ボランティアはまた、語学が得意な人が全国から集まってきた場合、必要な場所への割り振りなど調整役も担ってもらう。協

(市川美亜子)

平成 25 年 2 月 5 日 - 都政新報



国際交流協会と災害協定
 避難所巡回し外国人支援
 小平市は31日、市国際交流協会と「災害時における語学ボランティア活動に関する協定」を締結

した。市によると、文化振興などを主な目的とする国際交流協会との災害協定の締結は、全国的にも珍しいという。同市には約4千人の外国人が居住しており、地震や風水害など災害発生時の外国人対応が課題となっていた。協定書によると、市の要請に応じ、同協会の語学ボランティアが避難所を巡回。外国人避難者のニーズの聞き取りなどの支援活動を行う。また、ボランティア派遣の調整事務なども担当する。現在、同協会に登録している語学ボランティアは約80人。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、韓国語、タガログ語、インドネシア語の8カ国語に対応可能で、市内に住む外国人の大半をカバーしている。同協会の安部泰人理事長は「協定の締結は、語学ボランティアのやりがいにつながる。協定を広く周知し、機能強化のためにさらに多くのボランティアを募りたい」と語った。今後、市総合防災訓練への参加などを検討する方針。

③ イタリアの状況と課題 スッチー・マッシモ氏（八王子市在住）

■イタリアの地震の状況

イタリアはヨーロッパの中では地震が多い国である。アフリカのプレートとユーロ・アジアのプレートがぶつかり合うところであり、実際にプレートが押し合っているので、イタリアの国自体が短くなっているほどである。過去5年間で、比較的大きな地震は3690もあり、小さいものも含めると6万回にもなる。先週もローマがある州で大きな地震があった。

■課題

イタリアは古い建物が多いが、それらは耐震化構造になっていない。地震が起こると、多くの建物が崩壊し、そのために亡くなる人も大勢いると考えられる。アブルッツォ州ラクイラの地震の被害者は308人にのぼりました。学生寮が崩壊したことで8人もの生徒が亡くなってしまいました。

日本では、比較的、建物が耐震化されているので、地震でも建物の被害は少ないと思われる。イタリアでは、建物の約10%が1914年以前に作られているので、耐震化されておらず、東日本大震災のような大きな地震が起こったら、ほとんどの建物が崩壊するだろう。

1984年に建物の耐震性に対する法律が作成された。しかし、90%以上の建物がその法律に則っておらず、無視しているような状況である。従って政府は、この法律を周知させ、守らせる必要がある。また、防災訓練や災害・防災の情報がないので、防災対策に力を入れていくことが必要である。



マッシモ氏



● 質疑応答

■古川さん

イギリスでは洪水が多いこと、イタリアでは地震が多いことについて知らなかったので、いい勉強になった。

■ベルさん→古川さん

Q：避難生活について。どのくらいの期間、避難所に滞在することができるのか。

A：数日間は可能であるが、実際のどのくらい滞在が可能かどうかはこれから検証していく。

■スッチーさん→古川さん

Q：八王子市在住の外国人市民は、このような国際協会の取組を知っているのか。

A：そこが今後の課題であり、今後どのように周知させていくか検討が必要であると考えている。災害ヘルプカードは5000部つくり、大学、企業、モスク、教会などに配り、4000部出たが、ただもらっただけで、自分のものにするという意識は不足している。

■フロアーからの質問・コメント

- ① 八王子では、特に外国人市民のために、避難場所を市民センターにしているが、一般の日本人は避難場所として使用できないのか。また、小中学校など一般の避難場所に外国人市民が来たときには、市民センターをすすめるのか。

A：外国人市民専用というわけではなく、日本人も使用する。小中学校などの避難場所に外国人市民が来たときの対応の仕方は課題で、今後検討する。

- ② イタリアでは、災害に対する心構えなどはどうなっているのか。また地震への備え、例えば、家具が転倒しないように器具をつけるなどはあるのか。

A：学校や家でも防災について教育することはなく、よく知らない人が多い。先日地震があった時も対応は人それぞれであった。ただ、防災のパンフレットなどができ始めたので、少しずつ防災に対する意識が高まってくるのではないかと思われる。
また、家具の転倒を防ぐ器具などはない。



- ③ 日本では、小中学校で必ず防災訓練があるなど、たとえ浅い知識ではあっても、防災の知識は広く一般的ある。イギリスでは、防災や救命に対する知識は一般の人ほどのくらいあるのか。また、日本で防災に対する知識を広めていくにはどうすればいいと思うか。

A：イギリスでは、子どもの頃から防災に対する訓練を行っている。例えば、ボーイスカウトは42万人、その指導者は8万人いたり、St. John Ambulanceでは、正社員は2500人、ボランティアは4500人いたりするなど、日本と比較して、防災に対する知識の高い人は多いと思われるが、確かにそういった訓練を受けていない人もいるし、忘れてしまっている人もいるので、一般的にどのくらいあるのかを答えるのは難しい。

ただ、日本と比較して、訓練の期間も長いし、テストの難易度も高いので、訓練をしてきた人の防災に対する知識は高い。

防災に対する知識の広め方であるが、日常生活に取り入れ、普段の生活の中で訓練をしていくことが大切である。

日本では、防災訓練が大々的に行われるが、年に1回しか行われないことが多く、それでは身に付けるのは難しい。身に付けていないといざという時に行動できない。

例えば、夜中に電気をつけずにトイレに行ったりすることで、地震などが起こり、停電になったときにどう行動するかを訓練できる。こういった小さな訓練は毎日できるし、小さな子どもでもできる。このような小さな訓練の積み重ねが、実際に地震などが起こった時に生きてくるのである。

上の質問に戻るが、イギリスでは、こういった訓練が小さい時から行われるので、災害時でも無意識で行動できる人は多いと思われる。

● ワークショップ ～ぴっぴの防災ワークショップ

堀之内 陽子氏（(特活)はままつ子育てネットワーク事務局）

① はままつ子育てネットワークぴっぴについて ■ぴっぴの活動と子どもを守る防災ワークショップ

はままつ子育てネットワークぴっぴは、2006年に子育て世代の人がほしい情報が集まりにくいという状況を解決するために、子育て情報サイトを立ち上げることから始まった。

現在、浜松市および周辺地域の人々に対する子育てサポートを目的に、子育てに関する団体及び個人の相互の情報交流をサポートし、地域社会における市民活動団体、行政、企業、学校などが連携するための環境を作り、豊かな地域社会の形成に寄与して活動している。

具体的には、情報収集発信事業、講座・研修・調査・研究・コンサルティング事業、男女共同参画事業などの活動を行っている。その中の講座の部分で、子どもの防災を考える地域のネットワーク事業が組み込まれている。

防災訓練というと敷居が高い、堅苦しい、近づくにくい、または、子育て中など忙しくて後回しになる、さらには近所との付き合いの希薄化というような側面がある。このような面を見つめ直し、地域との日頃のネットワークの大切さを考えるために、子供を守る防災ワークプロジェクトを立ち上げた。ワークショップの開催、地域交流、情報ネットワークを作ることを目的に活動している。



堀之内 陽子氏

災害時要援護者とは、自分の身を守るための適切な防災行動がとりにくい人のことで、妊婦・子育て中の母親も要援護者であるとの視点から、ぴっぴ・浜松市社会福祉協議会・災害ボランティアコーディネーター、障害をもつ子どもの親の会・アレルギーの会などと共に、「子どもを守る防災ワークブック」を作成、このとき、外国人も「言葉の理解」という面に置いて、「要援護者」になりうるという観点にたっていた。

実際に避難生活を送ることになった場合に、例えば妊婦や子育て中の家族に不足しているものや支援の必要性を感じてもその時には間に合わない。そのために、日ごろから人任せにしないで防災に関する集会や訓練などに参加して、何が必要なのかなどを提言していく必要がある。

自然災害は避けられないので、被害を出さないという考え方から、被害を想定した上で、なるべく低

減らせていこうという考え方に変わってきている。そこで、プロジェクトのスタッフが被災者にヒアリングし、新しい情報をプラスして「ぴっぴ家族の減災ブック」を作成し、これをもとに講座・ワークショップを行っている。

ワークショップでは、震災への備えとして、家族会議で避難する場所や連絡方法を確認すること、実際に避難経路を確認すること、日常の危険物を教えること、命の大切さなどを伝えている。た

だ、講座を開き情報を提示するだけでなく、ワークショップも一緒に行い、子どもたちへの啓発も行っている。ワークには様々なものがあるが、例えば、「新聞で作るスリッパ」、「ビニール袋で作るカップ」、「君は何を持って逃げるゲーム」、「ぴっぴちゃんを救え」やアレルギーを持つ子供が避難生活を送ることを想定した紙芝居、災害に備えて家族会議の必要性を伝える紙芝居などもある。

② ワークショップ

講座だけでは「防災」の堅苦しい印象が残る。ワークを加えることにより、楽しみながら学び、日頃の知恵を活かして備える。身近にある物を工夫して代用する知恵を育むことが大切だということを知ってもらうことを目的としている。

■新聞でつくるスリッパ

災害時には、家の中でも、ガラス破損などにより床面が危険な状態になる可能性がある。身近にある新聞紙でスリッパが作れば、怪我をすることなく、安全に行動することができるし保温にもなる。

■ビニール袋でつくるカップ

雨や風、寒さやホコリから体を守ることができる。

災害時など緊急時は、人は体験したことしか行動できないものである。いざという時のために体験しておくことが重要である。

http://www.hamamatsu-pippi.net

国際化市民フォーラム in TOKYO

行ってみよう防災訓練、進めよう地域の取組

ぴっぴの防災ワークショップ



NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ

平成25年 2月23日
発表者: 堀之内 陽子

http://www.hamamatsu-pippi.net

ぴっぴの活動

浜松市及び周辺地域の
人々に対する子育て支援
を目的に、子育てに関す
る団体及び個人の相互
の情報交流を支援し、地
域社会における市民活動
団体・行政・企業・学校等
が連携するための環境を
作り、豊かな地域社会の
形成に寄与するために活
動しています。

- 情報収集発信事業
 - 子育て情報ホームページ管理・運営
 - 浜松市公認 子育て情報サイト「ぴっぴ」2005年より
 - 携帯サイト「ぴっぴ」2006年より
 - はままつ子育てガイド(冊子)2005年より
 - 浜松地域周辺の子育て世代を対象とした地域SNS2007年より
- 講座及び研修事業
 - 子育てサークル&団体ためのブログ講習
 - 子どもの防災を考える地域のネットワーク事業
- 調査・研究事業
 - UD(ユニバーサルデザイン)製品のモニタリング(静岡県)
 - 地域SNSを利用した家庭教育支援にかかわる調査研究(文部科学省)
- 相談事業
 - キャリアカウンセラーによる 働く(働きたい)パパ&ママのためのキャリア相談
 - 母親のハローワーク、マザーズサロンにて情報提供(予約制)
- 男女共同参画事業
 - 男性の仕事と家庭の両立に関する調査事業(静岡県)

http://www.hamamatsu-pippi.net

背景

- 防災訓練というと何となく楽しくないイメージ
- 「防災」について考える場に、女性や子どもの視点が欠落していないか？
- 「おたがいさま」という助け合いの気持ちで、地域ネットワークが問題解決のカギとなることに気付いていない





ビニール袋でカップをつくる



新聞紙でつくったスリッパ
卵のパックをがれきに見立てその上を
歩いてみる



浜松市
子育て情報サイト

ぴっぴ



あなたの子育てに
役立つ情報が
いっぱい!!!

ぴっぴ

検索

<http://www.hamamatsu-pippi.net/>

浜松市子育て情報サイト
ぴっぴは、子育て中のパパ・
ママの視点で市民と行政が一緒
になって考えているサイトです。
手当や助成、健診や予防接種
などの行政情報はもちろん、先
輩ママたちからのクチコミ情報
やサークル情報、ブログなどの
楽しい民間情報も満載！
あなたの知りたい・相談したい
・つながりたいにきっと役立つ
子育て最新情報をお届けします。



おでかけ先や
緊急時にも
とっても便利♪



ケータイでも
ぴっぴ!!

<http://hpnk.jp/>



たとえば...

- イベント** 地域のイベントや講座情報が満載！
カレンダーやイベント検索も便利です。
- サークル** 市内の子育てサークル・サロン・団体
の検索や、情報収集ができます。
- 保育園・幼稚園** 市内の幼稚園や保育園の情報です。
先輩ママの園選びアドバイスも必見！
- 医療機関** 子どもや妊婦の健康診断・予防接種について
の情報、委託医療機関の検索などができます。

ほかにも子育てにうれしい内容もりだくさん！詳しくはウラ面へ

このサイトは、浜松市とNPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴが市民協働で管理・運営をしています。

1. ビニール袋で、かんたん！カップづくり

3歳から

※おうちの人といっしょなら

家に怖れないときでも、雨や風、寒さやほこりから体を守るカップ。

家にあるゴミ袋で、フードつきのカップをかんたんに作ることができます。

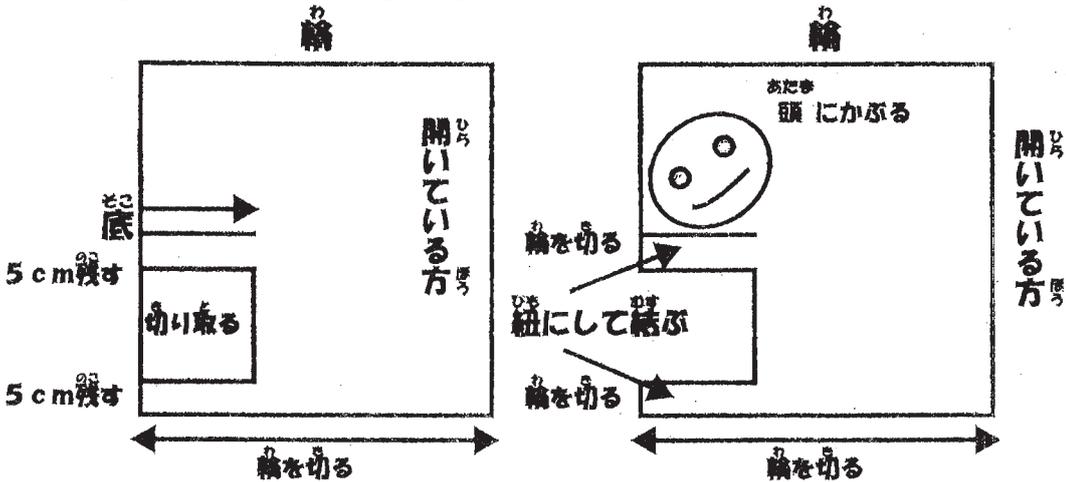


やってみよう

用意するもの... ゴミ袋 (45リットル)、はさみ

ゴミ袋で作るレインコート

① フードのついたタイプ

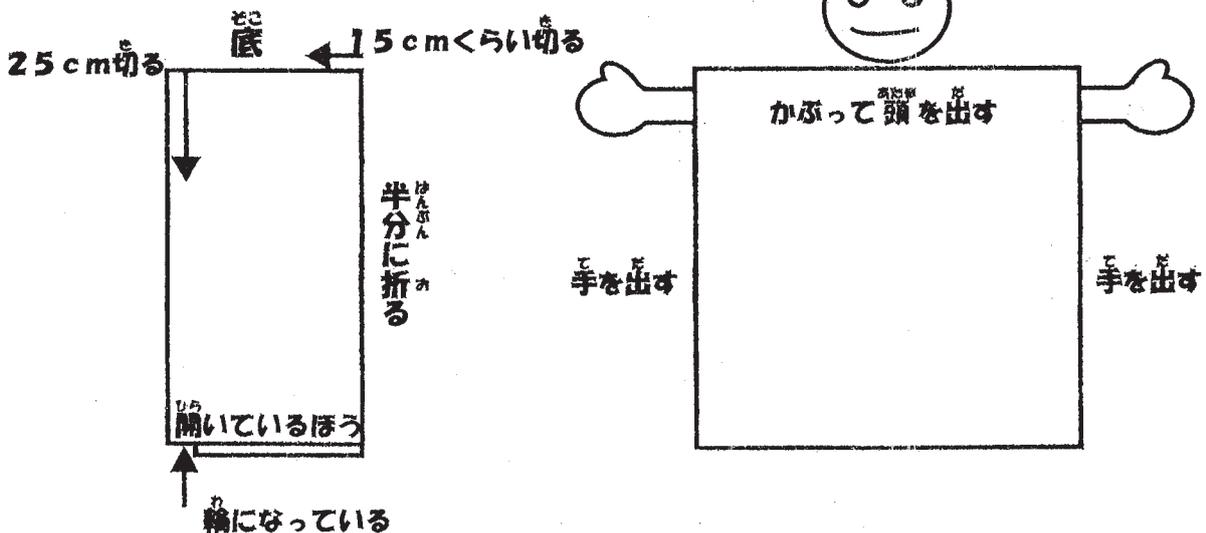


かんせい <完成イメージ>

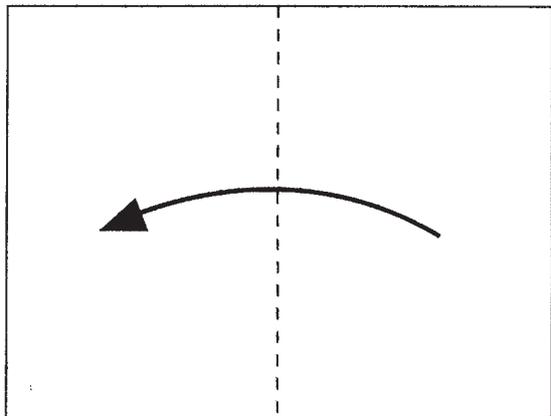
①と②をあわせてつけたところ



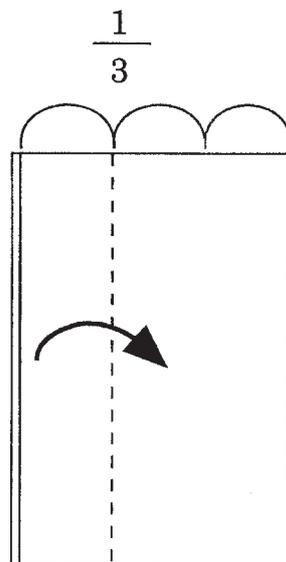
② 頭と手を出すタイプ



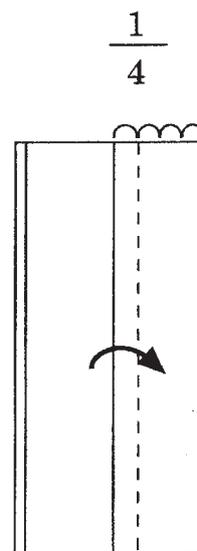
<スリッパの折いかた>
 お
 おずかしいときは、おとなといっしょにおってね。



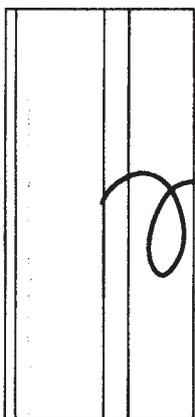
①はんぶんにおる



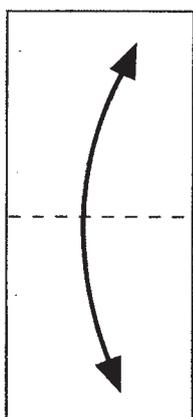
②てんせんでおる



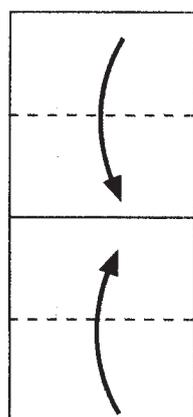
③てんせんでおる



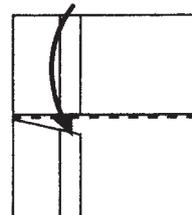
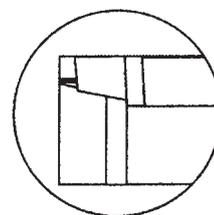
④うらがえす



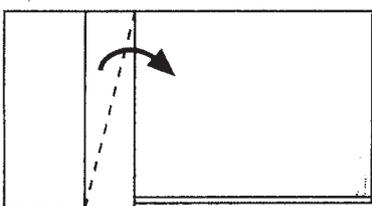
⑤おっておりめを
つけてもどす



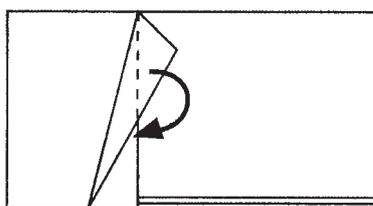
⑥まんなかにもけて
てんせんでおる



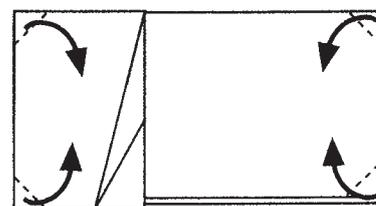
⑦さしこむ



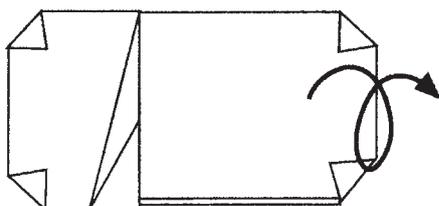
⑧てんせんでおる



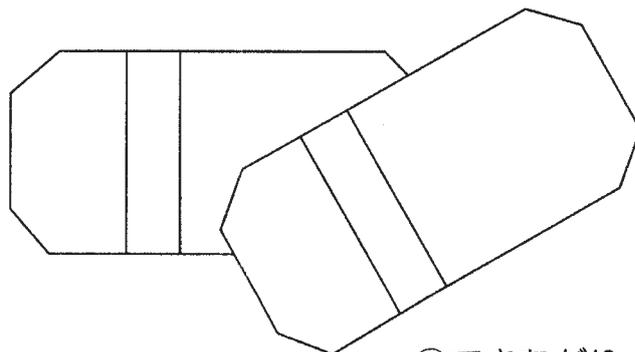
⑨てんせんでうちがわに
おる



⑩てんせんでおる



⑪うらがえす



⑫できあがり!

- テーマ 「わかる日本語」ワークショップ
～外国人にとって、「わかる日本語」は本当にわかりやすいか
- ねらい 日本語を学習する在住外国人は、「情報はわかりやすい日本語で書いてほしい」と希望する人が多くなっています。それに応えるように、「わかる日本語」で情報提供する動きが進んでいますが、在住外国人にとって本当にわかりやすいのでしょうか？ここでは、「わかる日本語」を利用する在住外国人にも参加していただくワークショップを通じて、「わかる日本語」のさらなるブラッシュアップを求めます。
- コーディネーター 中山 眞理子（NPO 法人多文化子ども自立支援センター 代表理事）
- ゲスト クリスティーナ・ロドリゲス
ヒュムン・ウォン
- 参加者数 36名

■分科会の構成■

- 「わかる日本語」中山氏によるレクチャー
- ワークショップ
グループに分かれ、課題文を「わかる日本語」にリライトし、それらを元に在住外国籍住民のゲスト2名に口頭で伝える。彼らが理解出来る内容、難解な表現の伝達等を取り上げ、在住外国人にとって本当にわかりやすい「わかる日本語」について考える。
- 「わかる日本語」中山氏によるレクチャー

中山 眞理子（NPO 法人多文化子ども自立支援センター 代表理事）

（1）日本人と外国人とコミュニケーションを取る場合の相違は

以下の6項目にわたる注意点についてコメントがあった。

1. 言葉遣い
2. 話す速さ
3. 相槌を打つ
4. 要件の復唱
5. メモを取る
6. クッション言葉



中山 眞理子 氏

(2) 世界の Plain OO語

全ての国民に対し情報を得る権利を保障する、という福祉的発想が起源。

移民を抱える国、EU 諸国、北欧に多く見られる発想。

特にスウェーデンでは、やさしいスウェーデン語の翻訳者養成・啓蒙機能も充実し、公式の PlainSwedish 通訳を養成し、各分野でプロの職業として認められている。

そのほか、英国や米国の状況について説明があった。

(3) 日本の Plain 日本語

スタートは「外国人」で、阪神淡路大震災後の各研究機関による研究により普及。

NHK による「NEWS WEB EASY」の開始、各自治体の生活便利帳発行、東京日本語ボランティア・ネットワークによる「わかる日本語」研究会での取組、練馬区「練馬区国際交流・多文化共生基本方針」に基づく研修開催等について紹介があった。

(4) やさしい、わかる日本語の必然性

- New Comer が増加し、多文化共生社会が進展している。

- 通訳、翻訳では対応できない多様性

多くの自治体では英語、中国語、ハングルのみの対応となっている。多言語対応は、人的、経済的に限界が生じる。

- マイノリティーへの対応

マイノリティーは言語だけではなく情報伝達、利便性等あらゆる弱さを抱える。

マイナーな言語の場合、翻訳のチェック機能がないために伝達情報内容の真偽確認ができない。→「わかる日本語」の必要性

- 「わかる日本語」3つのゲージが必要

- ① 行政文書：非常に厳しい枠組み

- ② NHK など

- ③ フリーな立場の担い手

情報難民を出さないように、できるだけゲージを低くする必要がある。。

(5) ワークショップに向けて：一番下のゲージに合わせて行う。

- ① 対象

- 日本に住む日本語を母語にしない、簡単な日常会話ができる人。
- 漢字圏なら 6 か月以内、非漢字圏なら 6 か月～ 1 年くらいの日本滞在歴。
- ひらがな、カタカナがわかる人。

- ② 話す速度

- ゆっくり、相手の速さに合わせる。

- ③ 情報

- 受け取る側にとって何が必要かを考える。

- ・品格よりも情報が伝わるかが第 1 条件。
- ・必要に応じて情報をそぎ落とす、順序を変える。
- ・言い換え等を用い、全体で情報が伝わればよし。

④文表現：短くする。

- ・一つの文に、主語と述語が1つずつ。
- ・1つの文に1つの情報。
- ・「尊敬語」「謙譲語」を使わず、「です・ます」の文体にする。
- ・否定表現は避け、肯定表現を用いる。
- ・二重否定を用いない。
- ・曖昧な表現は避ける。
- ・文末表現は単純化（受身・使役・使役受身等）を避け、できる限り統一。
- ・動詞活用を単純化し、学習しないと使えない文法は使わないようにする。

⑤言葉

- ・日常生活で使う言葉を用いる。（日本へ来て6か月程度の語彙力）
- ・外来語は避ける。
- ・カタカナ語は本来の意味との相違や発音等により通じない場合がある。
- ・擬態語、擬音語は中級レベルなので、できるだけ避ける。
- ・どうしても必要な言葉はそのまま使い、言い換えて説明する。

● ワークショップ

課題文を8つの班ごとに分け「わかる日本語」にリライトする。それを元に各班代表者が口頭で伝達し、ゲストにその内容が理解できたかどうか、分からなかった語句や表現などについて指摘してもらう。

■ 課題 1 ■

4つの課題を8つの班で分担し、「わかる日本語」にリライトする。

【課題 1 - 1】地震の時（エレベーターの中にいる場合）

中山

- ・まず前提として、エレベーターの中にいるということを伝えた方がよい。
- ・「地震です」
- ・エレベーターは「押します、止まります」「止まりました、出ます。階段で逃げます」。

【課題 1 - 2】交通事故の時

ゲスト

- ・「公衆電話」「事故」「次のことを言います」「ぶつかる」がわからない。
- ・「どこにいるかわからないときは近くの大きな建物を言います」が長い。

中山

- 「ぶつかる」は中級用語。
- 「いつ」「どこ」は「私」に主語を変えて文章にし、実際に警察に話すときと同じように具体的に言って誘導する。「私の名前は〇〇です」「〇時〇分です」「私の電話番号は〇〇〇です」など。

解答例(後半部分)

「あなたは今どこにいますか。わかりません。そのとき、見ます。あっ、大きい建物です。その名前は何かですか。その大きいビルの名前を言います。わからないとき、日本人に電話を渡します。日本人が言います。」

【課題 1 - 3】振り込め詐欺

中山

- まず「悪い人がいる」という前提がないと、そのあとの内容もわからない。

解答例

「悪い人がいます。嘘を言います。」

「もしもし、おばあちゃん、私、けがをしました。病気です。お金が要ります。今すぐお金をください。銀行にすぐ入れてください。」

「あれ？ちょっと変です。変な電話です。そのときは、あなたの家族に言います。そして、お金を渡しません。そして、気を付けます。」

【課題 1 - 4】ペット

ゲスト

- 「捨てる」「連れて行く」がわからない。
- 「毛」を「ケーキ」だと思った。

中山

- 「ペットの毛」ではわからない。
- 具体的な例を挙げた点はよかった。
- 「ルール」は用いず、「他の人が嫌いです」と言う。



■課題 2 ■

さまざまな募集の文章を課題 1 と同様にリライトする。
何を省いてどのようにまとめるかがポイントとなる。

【課題 2 - 1】リレー相談会の案内

中山

- 「相談にのって解決します」という意図が伝わらない。

【解答例】

「あなた、家族、友達に問題があります。そのとき、行きます。そして、話します。
偉い先生が『こうしてください、大丈夫です』と話します。それを聞きます。」
「いつですか。3月10日、日曜日です。2時から4時です。」
「電話、メールをしてください」
「とてもいい先生が話します。でも、タダです。」
「英語、中国語、韓国語、ドイツ語も大丈夫です。」

【課題2-2】農園利用者の募集

【解答例】

「あなたは野菜が作りたいです。でも場所がありません。その時、借ります。」
「30人だけ野菜を作ることが出来ます。他の人はだめです。1年、5万円です。」

【課題2-3】書き損じハガキの収集

【解答例】

「ハガキを書きました。あー、間違えました。そのとき、ハガキを捨てません。」
「郵便局へ出します。お金が来ます。それで、このハガキをここに送ります。」
「これはチャイルド・ファンド・ジャパン。ネパールに子どもの学校を作ります。」
「そこにハガキをあげます。ですから、捨てません。ここに送ってください」

【課題2-4】スタッフ募集

ゲスト

- ・「社会保険」がわからない。

中山

- ・機構についての単語は難しい。社会保険等の細かいことは外してもいい。
- ・まずその仕事に興味があるかどうかを聞く。

■最後に講師から

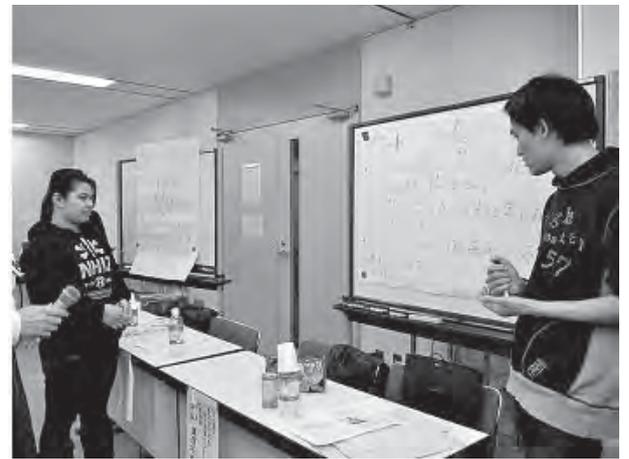
従来は課題1までを実施したが、課題2は今回初めての試みであり、大量にある情報の中から何を省き、どのようにまとめていくかという力を問われる内容であった。

今回参加された方の多くは、ボランティア活動等を通して日常的に外国人に接しているのではないか。そのような経験が全くない方は課題2についてはお手上げである。皆さんが日常的に多文化共生の社会づくりの担い手であることを実感することが出来、仲間が増えていくことを大変嬉しく思う。

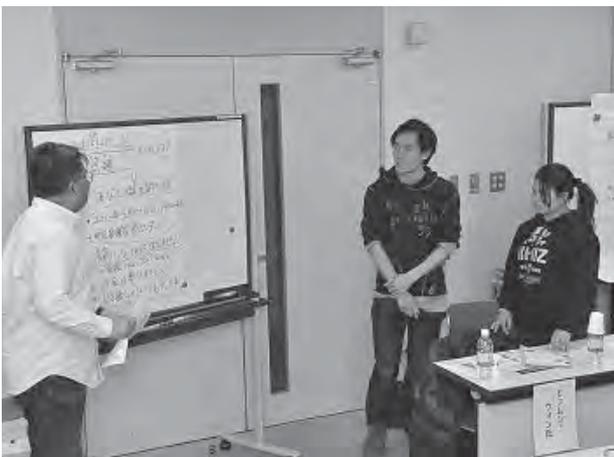
先に述べたように日本語には3つのゲージが必要。今まではそのうちの真ん中レベルへのアプローチが主であった。6か月～1年間の滞在者向けの「わかる日本語」によって、情報難民が出ないような社会が作れるように、そのゲージを皆さんに作ってほしい。



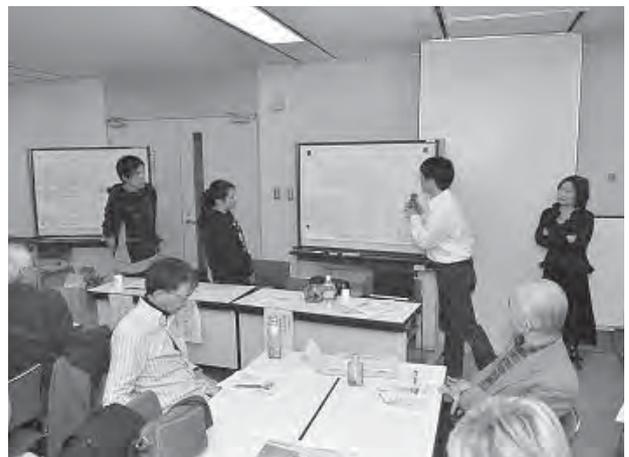
課題について各班で話し合う
「わかる日本語」ヘリライト



ゲストはその内容を理解できるか



班の代表は2人に口頭で伝える



わかる日本語へのリライト（課題 1－1）

地震の時

- ・エレベーターの中にいる場合

地震感知装置のついているエレベーターならば、地震が起こると自動的にいちばん近い階に止まります。

その階で降りて階段で避難してください。地震装置のついていないエレベーターは、自動的に止まらないので、回数ボタンをすべて押し、止まった階で降りて階段で避難します。

（課題 1－2）

交通事故の時

交通事故にあった時は、警察に電話してパトカーを呼びます。

電話番号は局番なしの 110 です。110 番に電話して次のことを伝えます。

- ・何があったのか
- ・いつ
- ・どこで
- ・氏名
- ・かけている電話番号

住所がわからない時は、現場近くの目印となる目標物を伝えるか、近くの公衆電話を利用します。

(課題 1 - 3)

振り込め詐欺

近年、日本で大きな問題になっている詐欺です。家族などになりすましたり、家族が事件や犯罪に巻き込まれたとうその電話をかけ、高額のお金を振り込ませます。

そのような電話を受けた時は、必ずその家族の居場所などを確認しましょう。また、相手が携帯電話の連絡先しか言わない、すぐ現金を振り込むように指示がある場合などは注意が必要です。

(課題 1 - 4)

ペット

- ・ペットは生き物です。飼い主として最後まで責任をもって飼いましょう。
- ・ペットの鳴き声やにおい、抜け毛などが原因で近所とのトラブルになることがあります。ペットを飼うにはこれらに対して気を配り、ルールやマナーをしっかり守ってください。
- ・レストランや公共施設ではペットの同伴が禁止されていることが一般的です。

平成 24 年度 国際化市民フォーラム in Tokyo 第 4 分科会

平成 25 年 2 月 23 日(土)

(1) 日本人と外国人との相違は

お客様に対する某区の窓口対応の基本接遇マニュアルから

「笑顔とまごころでお迎えます」お客さまサービス向上のための基本マニュアル

- 笑顔とまごころ ○ あいさつ ○ 身だしなみ
- わかりやすい説明

職員全員が、お客様の話をよく聞き、丁寧に対応します。

1. 言葉遣いに注意します。(敬語を使います)
2. ゆっくりと話します。
3. お客様の話に相槌を打ちます。
4. 用件を復唱します。
5. 必要に応じてメモを取ります。
6. クッション言葉(言葉の響きを和らげる言葉気遣いの言葉)を使います。

(2) 世界の Plain ○○語

1998 年、国際簡易言語協会設立

(各国の国民に対する情報を得る権利を保障する)

スウェーデン、英国、米国、NZ

英国: The Complete Plain Words 1930 年代

米国: 1950 年代初め: Plain English 運動

1970 年代後半カーター大統領によりマストに

大統領令: 連邦職員、法曹界

米国証券取引所: Plain English による情報開示を義務付け

スウェーデン: 1984 年、法曹界、政治家等の各分野の専門家の構成による委員会により、マストとなる。

公的機関、各地方自治体 400 機関: 無料相談会、講習会、季刊誌

公式 Plain Swedish 通訳を養成、各分野でプロの職業として認定

(3) 日本の Plain 日本語

(外国人住民のための情報伝達の必要性から)

阪神淡路大震災: 1995~2011 年 3 月 11 日の東日本大震災

◎ やさしい日本語の研究と実践

研究機関: 弘前大学佐藤和之教授、国立国語研究所、一橋大学庵准教授その他

2012年：NHKが放送開始

(各機関が語彙数、文型などの制約を設定し、研究・実施〔2000語程度〕
各地方自治体が生活便利帳・生活ガイドブックを独自の基準で翻訳

2012年：東京日本語ボランティアネットワークの「わかる日本語研究会」が東京都国際交流委員会 HP の「生活ガイド」をわかる日本語に翻訳

2012年：練馬区が「練馬区国際交流・多文化共生基本方針」を策定、「職員『やさしい日本語』でお客様に対応、今後、区民にも浸透を図る」と明文化。今年度3回のシリーズで職員の窓口対応研修：3回目は区民にも

(4) やさしい日本語の必然性

多文化共生社会の進展

通訳・翻訳では解決できない多様性

(人的限界、経済的限界、伝達情報内容の真偽の確認が不可能)

(5) わかる日本語

① 対象：日本に住む日本語を母語にしない、簡単な日常会話ができる人

② 話す速度：ゆっくり話す：相手の速さと同じ

③ 情報：受け取る側にとって何が必要かを考える。

必要に応じ情報をそぎ落とし、冗漫さを取り除く。

必要に応じ、情報の順序を変える。

1つ1つの言葉にかかわらず、全体で情報を伝える。

④ 文表現：短くする。

1つの文に、主語と述語が1つずつ

1つの文に1つの情報

「尊敬語」「謙譲語」を使わず、「です・ます」の文体にする。

否定表現は避け、肯定表現を用いる。

二重否定を用いない。

曖昧な表現は避ける。

文末表現は単純化（受身・使役・使役受身等）は避け、できる限り統一する。

動詞活用は単純化し、「る・ない・た・なかった」等「言い切り」の形にする。

⑤ 言葉

日常生活で使う言葉を用いる。（日本へ来て半年程度の語彙力）

外来語はなるべく避ける。

擬態語、擬音語はできるだけ避ける。

カタカナはできるだけ避ける。

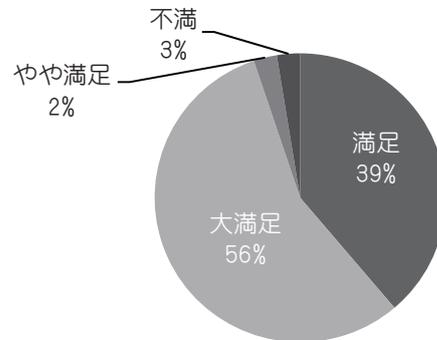
どうしても必要な言葉は、そのまま使い、言い換えて、説明する。

Ⅲ 国際化市民フォーラム in TOKYO アンケート結果

◎アンケート回収結果 のべ117名（参加者のべ145名） 回収率：81%

《満足度》

満足	(45名)
大満足	(65名)
やや満足	(3名)
不満	(3名)



《主な感想》

第1分科会

- 今後の参考となる。きっかけを掴めた気がする。
- 色々な立場の方からお話を伺うことができ、大変参考になった。
- 様々な形で国際協力に携わる方々からお話をいただいて、自分に関心のあるところから一步踏み出していこうという勇気をいただけた。
- 様々な形で国際協力ができるのだと感じた。また、Q&A で詳しいお話が聞けたので非常におもしろいと感じた。自分の国際協力への考え方も少し変わった気がする。自分にもできることがあるのではないかと思った。貴重なお話を本当にありがとうございました。もっと、いろんな人に知っていただきたいと思った。
- 今、自分は何ができるかについて改めて考えさせられた。また、様々な方のお話を聞いてとても勉強になった。フローチャートをつくって何ができるかすぐにアクションを起こしたいと思う。
- 様々なキャリアの方のお話が聞いて、とてもよかった。自分の国際協力への気持ちがさらに強くなった。
- 3つほどある。①自分は今、「ワールド・ビジョン・ジャパン」と「UNHCR」に関わっている。国際協力に携わりたいと思っても、そのような大きな団体のことしかよく知らず、実際に働いている人の生の声を聴く機会もあまりなかったため、今回、様々な団体や仕事、またそれらについての課題ややりがいなど、貴重なことが聴けた。②学生からでもやれることがあるということ、「気づいたら動く」ということが大切だと思った。③いろいろなことに挑戦しようと思った。経験して答えを見つけていこうと思った。
- 活動に入るきっかけとなった動機（例えばバナナと日本人など）を知り、感銘した。
- 国際協力への関わり方は様々なのだと改めて知れて、とてもよかった。
- いろいろなジャンルの話が聞けたこと。パネリストの人选。コーディネーターが素晴らしかった。ありがとうございました。
- 今日の各団体を知る上では十分な内容だった。一步踏み出したいと強く思える内容だった。
- 国際協力を始めるにあたって、どのような切り口から考えていくかという面で多様なバックグラウンドを持つ人々からの話があり面白かった。「はじめの一步」というお題に照らし合わせれば、現在の状況で聴衆の人々がどんなことができるのかという点にもう少しフォーカスしてもよかったの

ではと感じた。

- 様々な立場のパネリストの方からお話を伺えたので満足。
- 国際協力へ係わるきっかけの具体例がよくわかった。ありがとうございました。
- 幅広い分野の方のお話を伺うことができよかった。質問を考える時間を与えていただけたおかげで、効率よくパネリストの方々へ質問することができてよかった。
- 実際に活動を実践された方々の生の声を聞けたことが何よりよかった。また、国際協力の分野に入る皆さんのきっかけが盛り込まれていたのがよかった。
- それぞれの立場の方からお話をいただけてよかった。質疑応答の中でより具体的な内容やお話を聞くことができよかった。
- 他方面の立場からのお話が聞けてよかった。
- 知人に国際協力 NGO ジョイセフ（公益財団法人）やエクマツラ（バングラデシュにてストリートチルドレン支援活動、啓発活動する団体）で活動していて、その活動の一端を知ることが目的で参加した。少し理解が進んだ。ありがとうございます。
- 様々な方向からの「国際協力」があって、視野が広がった。皆さん本当に思いの異なる方向から今の活動をしているのだと思った。コーディネーターの方の司会進行が円滑で大変尊敬した。
- 実際に活動されている方のお話を聞けたのでよかった。こういった話者の選出をされたのか気になった。
- 知り合いの団体が出演しているから。
- よい刺激を受けることができた。
- 実際に仕事をしている人の具体的な話を聞くことができたのは、とても貴重だった。門田さんの「考えると同時に動くこと」をモットーにインターンなどに参加していきたい。
- それぞれの立場で、第1線で活躍されている方々の話が聞け、参考になった。
- 国際協力は色々やっているが、NPO なのであまり参考にならなかった。資金集めに苦労している。
- 各方面で協力を携わっている方々の活動内容について直接説明いただけたのは有意義だった。ただ NGO 等で自主的に活動されている方の話に比べて自治体から参加された方は役所的で面白くなかった。

第2分科会

- 背景、実践の両方の話を聞くことができた。
- やさしい日本語の根幹の目的を明確に知ることができ、さまざまな取組事例を講師の方から聞くことができたため。
- 久しぶりの研修受講であったが、講師それぞれ見識が高く、おもしろかった。
- 語学ボランティアとして活動しているのだが、「やさしい日本語」が外国籍の方々から日本人の子供・老人・障害者と対象として広く普及しつつあるというお話を伺い、大変参考になった。
- 「News Web Easy」のサイトを初めて知った。庵先生の講義がよかった。
- 企画がいい。全員ははっきりした話し方で理解しやすい。資料が充実している。カラフルでわかりやすい。
- 「解りやすく十分に伝えること」について現状を学ぶ非常に有意義な機会だった。登壇者をはじめ、

事務局、関係者の皆さまに感謝する。今後も充実したフォーラムを期待する。

- やさしい日本語といっても、日常のボランティア活動ではなかなか優しくできないまま、学習者に説明していることも多々あった。そういう反省も含め、いかに優しく伝えるか、まさに生活密着型で日本語ボランティアを続けていきたいと思った。

NHK「News Web Easy」は、これまでの苦勞がひしひしと伝わってきて、応援したくなった。自分も、学習者に日本語を教える時の生教材として使ってみたい。

- 私は現在地震災害のプロボノ（専門家の知識、経験を活かしたボランティア）活動をしている。その中で災害時の外国人支援が問題となってきた。「やさしい日本語」にするのが難しいという話は聞いていたが、今日の第2分科会でそのことがよくわかった。今後外国人に「やさしい日本語」で災害時の支援ができるよう活動したいと思う。
- 普段から「やさしい日本語」について関心があったので、興味深いお話が聞けた。特にNHK「News Web Easy」は具体的な取組方をお話いただき日々の大変さがよくわかった。
- 3年ぶりにフォーラムに参加し、やさしい日本語への取組が進んでいることにおどろいた。多言語化にはコストと手間がかかり、情報が受け手にどのように理解されているのかずっと掘めきれずにいる。やさしい日本語の重要性がよくわかった。質疑応答の時間がほしかった。
- 行政サービスにおける在留外国人支援の実例や概念、また様々な現状を理解することができた。
- やさしい日本語の有用性や重要性を改めて認識することができた。先進的な取組の紹介はとても参考になった。
- 割と新しい情報も多く、知らないことも多くて非常に参考になった。
- 研究者、報道機関、行政という様々な立場での取組やトレンドを広く知ることができ、興味深かった。日本人として、人と話すときの意識をどう持つか、相手にわかりやすく話す心がけについて考えるきっかけとなった。
- 配布資料が充実していたから。
- 「やさしい日本語」の考え方、活用例など短い時間で網羅的に理解することができ、とてもよい機会だった。News Web Easyには関心があったので、事情がわかってよかった。公文書の書き換えについては、行政の壁を日頃から感じている。公文書の基準の中に「やさしい日本語」の概念が盛り込まれているととても良いと思う。
- 他区、他所で、多文化共生に向けて取組が進んでいることを知ったため。自身の職場でも推進していきたい。
- 以前より、この取組には関心があった。「やさしい日本語」の「公文書書き換えプログラム」の方向性は、よく理解でき大変参考になった。現在、日本語教師ボランティアをしている。学習者にどのような形で「やさしい日本語」を取り入れるか、役立つ情報がたくさんあった。
- 各講師の方々の話は大変わかりやすく、素晴らしかった。
- 行政の取組がわかってよかった。特に練馬区が基本施策に盛り込んでいることは画期的である。今後、市レベルでの基本施策、策定が加速すると思うが、「やさしい日本語」の導入を期待したい。
- 外国人にとって必ずしも英語がわかる言語ではない。受身文のわかりにくさ、日本人同士でも子供への話しかけで関わってくるなどなど、新しい発見があった。
- NHK「News Web Easy」のことは知ってよかった。学習者で日本のニュースを見たいがよくわか

らないとの声もあるので、情報として知らせたい。

- 「やさしい」は、easyではなく、kindという考え方が印象的で、ポイントだと思った。
- 「やさしい日本語」の必要性和現状を知る機会がなかったのでよくわかった。できればあと2倍くらいの時間がほしかった。
- 時間が少なすぎた。
- 「News Web Easy」の取組が興味深かった。ただ、サイトの入口がわかりにくいのは一考の余地あり。わかる日本語＝他の人の視点を意識という庵先生のお話は国語教育の中にも取り入れて行くべき課題。練馬区の基本方針、取組がもっと広がることを期待。
- やさしい日本語、わかりやすい日本語の事例をうかがい、自分の自治体でできることや欠けていることに気づかされた。
- 具体的な話をたくさん聞いてよかった。
- 4人のお話が全てわかりやすかった。具体的な例をあげた NHK と荒川区の発表はよかった。わかる・やさしい日本語について調べているため、行政の立場やメディアの立場、専門の立場など幅広い見解や情報を拝聴することができ、有意義であった。災害時だけでなく広く人々がつながるとてもよい取組ではないかと思った。
- NHK の取組を初めて知った。
- 「やさしい日本語」の具体的な活用例を勉強できた。
- 時間が足りないと感じた。先進区の事例を紹介してほしかった。
- NHK、越智さんが取上げられた「～として」の表現、これは一般日本人である私も常々耳障りに感じている。～を見て、～と考えて、～の疑いで、～という理由でなどもっと具体性を持つべきでしょう。NHK の一般ニュースでも「便利遣い」としていることが非常に多いのでぜひ改善して欲しい。荒川区の努力には、中野区でも学ぶ点が多くあった。ただし、「～のほう」という表現が随所にあっただので要注意。学校の先生でも（特に若い方）「書類のほう持ってきていただいたでしょうか」など多用しており、嘆かわしい。
- 現場での取組が参考になった。これから「やさしい日本語」をもっともっと普及させていく必要があると感じた。基調講演でも紹介されていた翻訳支援システムが待ち遠しい。
- やさしい日本語を大いに考えることになった。自分たちの本や教科書でもルビを付けることを希望する。理解度が増す。医者向けも必要と思っている。
- 「やさしい日本語」の視点がかなり明確になりよかった。「News Web Easy」はぜひ仲間にも紹介したい。生活便利帳の作成（日本人向けの翻訳ではない点に注目）参考になった。練馬区職員対象の研修、区の姿勢、意識の高さ、大変参考になった。一般人にも呼びかけられた点がよかった。
- 外国人に対してやさしい日本語で対応しようという思いは理解できる。しかしここまでする必要があるのだろうか。外国で生活する上で苦勞を伴うのは当然のことで、言語の壁も乗り越えられないような外国人を受け入れる必要を感じない。世界には自らの努力で日本語を取得し、日本での就労を希望している人は多いと思う。そういった意識の高い外国人を受け入れるシステムを構築することのほうが重要に思える。例えば、逆の立場で考えた場合、どこの国が在日本人に対して理解できるようにやさしい母語で対応してくれるだろうか。これはやさしいのではなく、単なる甘やかしだと思う。

第3分科会

- 外国の方の防災についての説明が聞けたこと。ワークショップでスリッパやカッパ作りを学べたこと。
- 地震に対する取組や状況をイギリス、イタリア、日本を比較したプログラムがよかった。
- 実用的な内容だったから。
- 実体験させていただけたことで、自分自身の意識が変わったと実感できた。やはりやってみることは大切。
- イタリアの事情がよくわかった。
- イギリス、イタリアの事例は興味深い話だった。
- ワークショップをやってみたい。
- ワークショップが楽しかった。
- 外国籍市民向けの災害ヘルプカードや防災訓練などの活動を伺うことができ、大変参考になった。イギリスやイタリアの災害対策についても状況をうかがうことができ勉強になった。
- 外国の防災事情を理解し、日本での改良点もみえてきた。やさしい防災（ぴっぴ）の考え方、とても親しみがもてた。
- 海外の地震、災害対策や女性や子供に対する防災・減災の知識や情報を得られた。多文化共生の行政の方とお話ができたりと意見交換の場にもなり、有意義だった。
- 外国での防災訓練など、日本とは差があることがわかった。外国の良い点は日本でも取り入れるべきであると思った。
- パネリストの皆さんの話が多様で、防災について多角的に考えることができた。ワークショップも楽しかった。
- イギリスで若いうちからリーダーシップの育成をはかっている話が印象に残った。防災に役立つと同時に、青少年の成長につながる。ワークショップも外国人対象にやってみたいと思うが、参加を促すヒントがほしかった。
- イギリスのケースをもっと詳しく知りたかった。自然災害の規模や回数の点では、日本の方がずっと悲惨なので学ぶべき点として 英国のリーダー養成について学びたかった。イタリアが地震が多いことは知っていた。
- 知らなかった各国の防災教育について勉強ができたためになった。外国人の防災教育であるとか、災害時に外国人がどう動いたらよいか、情報はどうやってとるかを もっと聞いてみたかった。また、取組にどうやったら入れるかということも、どのように考えられているのかを知りたかった。ワークショップは楽しかった。

第4分科会

- わかる日本語のリライトと外国人に理解してもらえる難しさを実体験できた。
- 講義のようなものだと思っていたけれど、グループで実際に自分たちで考えることができてよかった。
- ワークショップの楽しさを味わった。日本語での説明の難しさを感じた。
- 伝えることの難しさを痛感したが、情報難民を作らないために少しでも貢献できるように学びたい

と思った。

- やさしい、わかりやすい日本語の作り方、ポイントをしばって情報を的確に伝えることの難しさをもう一度考え直すいい経験になった。
- ワークショップはとても楽しかった。情報の整理をすることがまず大切だとわかった。
- ワークショップで実践を学べた。
- 午前中に引き続き、午後のワークショップによりさらに具体化したイメージを得た。楽しかった。
- 外国人に伝えるためのやさしい日本語だが、相手に伝える本質について改めて考えさせられた。また、課題を通してのグループワークは大変楽しかった。
- 日本語を十分話ができない人に、情報を伝える体験は面白く興味深かった。
- 簡単にわかりやすく伝えるということを学んだため。
- 自分のバックグラウンドというか、まだまだ勉強、経験不足だった。とても楽しく有意義だった。
- やさしい日本語にするのがいかに難しいか実感した。
- 実際の場面を想定して、勉強することができた。
- 実際の学習者とのワークショップが、手ごたえがあってよかった。
- 「やさしい日本語」に変えていくことの難しさを実感した。他の人の話すのを聞くことで、とても勉強になった。
- 実際に作業をする外国人の方がわかったかどうかを検証したことがとてもよかった。
- 具体的な例があってよかった。来てくださった外国人の方が1人（実際には2人）だったが、もう少し多ければグループごとにもっと練習できたかもしれない。
- リライトの目的を作業前にもう少し理解していればよかった。仕事の募集内容など勝手に削除することに多少違和感があった。
- 普段行わない翻訳ができた。
- 具体的な言い方を体験できた。参加してくださった外国人の方には本当にお疲れ様といたい。
- 「余計な情報は削る」「主語を明確に」の重要性を再認識した。
- 少し忙しすぎる。もう少し課題を絞り込んでほしかった。
- 実際に外国人に判定してもらいながら実践できたのでよかった。また、楽しく学ぶことができた。
- 今までの経験したことがなかったことなので、なるほどと思うことばかりだった。いつもはボランティアで学習を教えていることから一足飛びに現実的な世界に入ってしまった。これからはこの一部を実践してみたいと思う。
- 「やさしい日本語」の必要性が十分理解できた。
- ワークショップは悪くないが、あまりまとまりがなかった気がする。外国人にもある程度、状況に乗ってもらわないと話が進まない。相手の外国人が前向きに話を聞きたいという設定にしないとそもそも話が進まない。課題の内容に無理がある。

平成 25 年 3 月発行

国際化市民フォーラム in TOKYO

編集・発行

東京都国際交流委員会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-1-5

昌平橋ビル 3 F

電話 03-5294-6542

F A X 03-5294-6540

印 刷

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会 事業局



